# 女學雜誌

一册六錢

各土曜日發兌

第百九拾號

當府内無郵税

郵税五厘

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

# The Woman's Magazine.

## (JOGAKU ZASSHI.)

No. 190. December 7th, 1889.

第百九十號目錄



EDITORIAL:—Young Men and the Liberal Party.

LEADING ARTICLES:—Human Nature. Man and Woman in Christianity. (*Continued*).

CERITICAL NOTES:—Criticism of the Opinion concerning Japanese Poems. Notes on the Popular Kōmon Play at the Kabuki Theatre.

MISCELLANEOUS:—The year is passing away. Dr. Levingstone, the true Great Man. How to gain the Love of Husband. Cold and School Girls. How to suckle. Sleep, Dream and Somnambnlation. (Dr. Mishima).

NOVEL:—"The Italian Beauty" (*Continued*).

CONTRIBUTED ARTICLE:—A Recollection of the Play at the Kabuki Theatre.

OPEN LETTERS:—

NOTES ON THE NEWEST ISSUES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

SINCE OUR LAST ISSUE.

社說　青年及び自由黨

論說　人情(厂陵居士)○基督教男女論(前岡希聲)

批評　和歌を纖弱なりと云ふ說を評す○歌舞技座の俗說美談黄門記

雜錄　年逝かんとす○清き英傑リビングストン○如何にして良人の愛を得べき○寒氣と女生徒○乳の飲ませ方○睡眠、夢、夢行(醫學士三島通良)

小說　伊太利の佳人第三回

寄書　歌舞技座の見物○辨妄○小說家？屎屑家？

答　根津を洲崎に移したる理由、當時府會に於ける議事及び廢娼に於ける府會の議論

時事　兒島高德○岡山孤兒院○目下の美術諸會○繪草紙屋の變遷○東京府會の廢娼論起る○群馬縣會○刑事被告人○穢多よりも汚なり○新平民○　務小史

開書　通信女學の事○交詢

女報　貴婦人の茶會○長野縣○小島宮吾氏○府會傍聽者○伴直之助君○賄賂事件報告○婦人矯風會○平民之友○女子訓導○河竹島子逝けり○其他七件


## Women in Japan.

(1) *We are highly pleased to state that after a hot discussion, the Kōdzuke Provincial Assembly passed on the 26th ult. the Prostitution Abolition Bill with a great majority.*

(2) *After they had passed the Abolition Bill, the Kōdzuke Assembly nominated, on the 27th ult., five of its members as the committee, whose duty was to see the Governor of the province, and minutely explain to him what is the public opinion in the whole province with regard to the abolition of prostitution, and thus urge him to approve the measure speedily.*

*The members of the Kōdzuke Young Men's Christian Association are busy in promulgating pamphlets, favoring the abolition of prostitution. We cannot help admiring the zeal and wisdom of these good people.*

(3) *Mr. K. Kojima, the 51st member of the Tokyo Local Assembly, moved on the 3rd inst. the necessity of the abolition of prostitution in Tokyo. Mr. U. Taguchi, the 61st member, seconded the motion. Mr. T. Sudō, the 31st member, then suggested that it would be well for Mr. Kojima to minutely state his reason on paper and bring it up again at some future date before the Assembly, so that the Assembly can at once decide whether they will adopt it or not. Thus, the debate on the subject was postponed till a future date.*

*We venture to warn the righteous who are in this City that the time for their earnest effort has now arrived.*

(4) *We are also informed that the Tokyo Women's Temperance Association and the Ladies' White Ribbon Association separately addressed letters to Mr. T. Yoshino, Vice-Chairman of the Tokyo Local Assembly, urging the need of the abolition of prostitution in Tokyo.*


Digitized by Google

Original from COLUMBIA UNIVERSITY

リビングストン之肖像

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

女學雜誌　第百九十號　明治二十二年十二月七日發兌

# 社說

## ○靑年及び自由黨

歐陽子夜に方りて書を讀む、聞くに聲の西南より來たる者あり、悚然として之を聽き曰く異しひ哉！、初は淅瀝として以て蕭颯たり、忽まち奔騰して澎湃たり、波濤の夜驚ろき風雨の驟かに至るが如し、其物に觸るゝや鉦々錚々、金鐵皆鳴る、又た敵に趣くの兵枚を銜み、疾く走り、號令を聞かずして但だ人馬の行聲を聞が如し。　童子に云く、此れ何の聲ぞや？、汝ち出でゝ之を視よ、童子の曰く、星月皎潔、明河天に在り、四もに人聲なし、聲は樹間に在り、歐陽子曰く噫嘻悲しひ哉！此れ秋聲也と。而して吾人は此秋聲と共に一の風評、西南より到るを聞けり、其音極めて痛快、云く自由黨再興の議正に決すと。

方今我國の政黨氣質を三つに大別するを得、自由黨的なるもの一也、改進黨的なるもの二也、保守黨的なるもの三也。茲に、自由、改進、保守と云へる三つの題目を揭げ、三黨に向つて汝ち之を愛するやと問へ、三黨は皆一齊に之を愛すと答ふべし、更に、不自由、不改進、と云へる二つの題目を揭げ、三黨に向つて汝ち之を惡むやと問へ、三黨は亦一齊に之を惡むと答ふべし、夫れ三黨の好惡する所ろ如此く相同じきなり、然れども其之を好惡するの度數に於て相同じからざる所ろあり、之を以て一は尤も急激に自由ならんとを欲し、二は尤も着實に自由ならんとを欲し、三は尤も平和穩當に忍び且つ自由ならんとを欲す、此に於てか自由黨なるものあり、改進黨なるものあり、保守黨なるものある也。　保守黨も亦固より進まんとを欲し且つ自由ならんとを欲す、然れども自由派改進派の如くに進歩するとの純正の進歩にあらざるを信じ、且つ一の自由を買はんが爲に二の不自由を受くることあらんを恐れ、敢て多くの舊習舊慣を打破するとを能くせざる也。　自由黨も亦た習慣を重んじ、着實溫厚を重んじ、眞正の保守の無かる可らざるを知れり、然れども彼の改進派の着實溫厚と目するものは彼に取りては既に因循柔弱と見え、保守派の習慣とし保守とするものは彼に取りては既に惡弊たり頑陋たりと見ゆ、彼豈に過激なりと信じて過激の事を爲さんや、極めて溫厚の事なりと信じて斷行する所ろのもの偶たま以つて他の過激と目するものに當れる耳。　改進黨の保守黨に同じからざるは、猶ほ自由黨の改進黨に同じからざるが如し、保守



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

黨は其保守を以て中正の保守なりと信ず、故に之よりも一層改進したるものを以て既に保守にあらずと爲す、自由黨は其自由論を以て適切の自由論なりと信ず、故に之よりも一層穩當なるものを以て既に適切の自由擴張法にあらずとなす、左れば改進黨は保守派の如く保守するとなし之を以て保守派と同じからず、自由派の如く急進するとなし之を以て自由派と同じからず。

既に人あらば靑年あり、壯年あり、老年あり、既に情あらば急なるあり、穩なるあり、頑なるあり、既に智あらば壯活なるあり、綿密なるあり、愼嚴なるあり、生人あつて以來常に此の相違の滅しがたきを知らば、政黨氣質に於て亦た三の大別あるは固より至當にして、其氣質發揚し、一は自由黨となり、二は改進黨となり、三は保守黨となるも亦固より至當なるを知る、而て靑年らしき急情壯活の人の自由黨員となり、壯年らしき穩情綿密の人の改進黨員となり、老年らしき頑情愼嚴の人の保守黨員となるは當に然るべきとにて、扨て自由黨員が自由黨を可とし、改進黨員が改進黨を可とし、保守黨員が保守黨を可とするは亦尤もの事なり。吾人は之を珍らしきとども、驚ろくべきとども、亦た賞むべきとども思はず、只だ其相誇り、相意張り、相高ぶり、自黨之れ最善最要の政黨にして他は何の妙所もなく必要もなきものなりと、罵り合ふを聞くに至り、初めて之を可笑しく思ふとある耳。

既に代議政治となれば、政黨も必要となれり、既に政黨の世の中となつて政治界の一議員たらんとせば、何にても其心に適し氣に合ふ所ろの一政黨に加入するを善とす、既に如此く加入するもののあるときは政黨の團結なかる可らず、政黨の團結なかる可らざるときは亦之を取締るとなかる可らず、此に於てか政黨の總理と云ひ、規約と云ひ、名簿と云へる如きものも出來る也。

然るに保守派、改進派の兩政黨には隱然明滅の中に總理も定まり、規約名簿も調ひ居る如くなるに、所謂る自由派なるものに至つては未だ一の政黨的とならず、或は大同團結と云へるものにも加入し、或は壯士と云へるものゝ仲間にも加入し、或は何とも名の付かぬ所ろにも横行流浪し、三々五々勝手氣儘に振舞ひて一の約束する所ろなし。夫れ中年、老年の人間は、單立獨行するの勇に乏しくして兎角に同志者と一處にならんとを願ふ者なれども、少年は天下の英雄唯吾のみと暴信し、勇氣凜々として水の中にも火の中にも一人にてすら敢て侵



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

入せんとするものなれば、人に依り他に合せんとするの氣風至つて少なし。故に若し政治上に於て團結約束と云ふとを利益ありとせば、彼の少年氣風の者にこそ尤も多く利益あるべし、壯年老年の人に至つては之を放却し置くとも個々分離するの掛念は至つて薄かるべし、然らば先づ政黨的の結成を要するは自由黨派の人々あるに、今日自由黨派の人々は何たる一定の約束をも爲せるとなし、之れ甚だ不適當の事なりと思たるに今や即ち自由黨再興の風評あり、吾人之を賀す。

餘り狂氣ぢみて暴進する弊害に對しては、保守黨の人宜しく之を救ふべし、計を立て策を運らし目下の急務に關して政治を取行ふの任に對しては改進黨の人宜しく之に當るべし、情實舊慣等に包まれて國運の進路を防害する邪物に對しては自由黨の人宜しく之を打破すべし。喩へば自由黨の人は荊棘を啓きカナンの地を指ざし示すべし、改進黨の人は其地〳〵に家を建て丶今日の入用を足すべし、保守黨の人は移轉ごとに舊所有を片づけて后より檐ひ來るべし。夫れ何の時にも改革と秩序と保存とを要す、天は青年をして活潑の革命者たらしめ、壯年をして着實の建設者たらしめ、老年を氣長の保存者たらしむ、况んや此れ今日の日本は革命と建設と保存とを三つながら尤も多く必要するの時勢なるをや、自由黨も大切なり、改進黨も大切なり、保守黨も大切なり、三黨の均しく世に双び立んとを希望するが故に、今に於て其一の欠けたる者玆に補はる丶を大賀せざる可らず。

殊に今日は就中自由黨氣質を入用するの時也、明治と云へる一個人は元年より八九年の頃迄は少年にてありき當時天下の人は殆んど自由黨員の如くにてありし也、九十年より十五六年迄は壯年にてありき當時天下の人は殆んど改進黨員の如くにてありし也、爾來今日に至る迄時ならぬ老年を氣取り、世運沈滯、万事復古し、天下は殆んど是れ保守黨員を以て充滿するが如く覺ゆる也、情實の皮も厚くなり、舊慣の丈も高くなり、腹便々として只管ら逸居飽食し、國力の歩み極めて遲くあれり、此時機は青年當に大奮すべきの時也、故に自由黨の亦當に大興すべき時あるを知る。

因循を驚かし、情實を打破し、貴族的に辛き目見せ、淡々平々たる自由主義平民主義を斷行するは實に自由黨員の長所なり、今日沈滯の時勢に於ては特に此種の盡力を要す。

唯だ自由黨員が夢寐にも忘るまじきもの一あり、彼等は昨日を記臆せず、今日を思はず、只だ明日をのみ理想するもの也、



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

而して其明日に於ける理想、今日に於て行われざるときは忽ち不平憤恨し、遂に尤も急激なる手段を以てだに其の理想を實收せんと欲す、自由派の害なるもの一に此に存す、彼等は今日の奴隸に向つて自由を吹込み乍ら、之をして明日迄で待たしむるの說法を爲さず、今日直ちに解放せられざれば直ちに暴反せよと言わぬ計りに唆かすことなり、否なたとひ唆かすことなしと云へども、其形跡に於て唆かすに當ることなり。

凡そ不自由は自由を知れる時より起る、故に自由を敎ゆるものは人をして不自由を感ぜしむることを知らざる可らず、不自由を感ぜしむるは自由に到らしむるの道なり固より不可なし、然れども自由に到らしめんと欲するものは其未だ自由に到らざる迄で敢て之を忍耐するの覺悟をも併せ與へ置かざる可らず、故に自由を敎ゆるものは人をして不自由に忍ばしむるの安心をも併せ敎えざる可らず、然らずんば此れ人に亂を敎え、國家に亂を起すものとなるべし。

大人は今世に滿足せず、然れども敢て之に忍ぶことを知る、之に忍びて能く安心するを得、而して尙ほ來者を熱望するの理想いよいよ固し。願くは后の自由を理想するもの亦今日の不自由中に一の安處を有するの覺悟を得よ、然らずして明日の爲めに今日を憤ふり、今日を憤ふりて今日恨死するは眞の自由を樂しむものにあらざる也。左れば自由黨の人は自由を敎ゆると共に不自由に忍ぶことを敎ゆべし、而して不自由に忍ぶことを敎ゆるは宗敎よりも可なる者なし。吾人は政黨と宗敎と關係するを太はだ惡む、然れども政黨員と宗敎との關係の極めて密切ならんを望む、苟くも政黨員なるものは一つの宗敎を信ぜんことを求む、殊に彼の自由黨派の人に向つては尤も之を求む、何んとなれば之れ彼等が重病所を醫す唯一の醫藥にして、亦た彼等が大不平を安んずる唯一の緩慰劑なれば也。

エドヰン、アルノルド其「亞細亞之光」に云く、

吾れ佛陀、全世界の苦痛にて心を破りたる、万の兄弟の涙の爲めに泣く吾佛陀は、笑ひ且喜べり、蓋此處に自由あればなり。ヲー難める人よ、聞け、知れ、難みは之れ汝ち自らより發す、他の何物も汝に迫らず、汝に死せよ、生きよとて他に汝を制するものなし。……見よ吾れ汝に眞を告ん、地獄よりも低く、天よりも高く、星よりも離れ、ブラマ住へるよりも先き、始めよりも前、終よりも後、空虛の如く永遠に、眞實の如く眞實に、常に善に進行する一の聖なる力あり、只だ其力の法は無窮世に遺るなり。

又聖經に云く、
眞理は汝に自由を得さすと、
嗚呼此れ總べての青年に適切なる敎へなり、故に亦た總ての自由黨員に尤も適切の訓誡たるなり。

## 論說

### ○人情

雁陵居士

或る傖夫曰く大臣樣ともならるゝ人は圖書館に備へある書物を悉皆讀み盡し字典に在る文字を悉皆記臆し詩歌文章も善くし繪畵彫刻も善くし數學にも明かに理化學にも達したる人あらんと是れ實に好笑なり。

然れども何ぞ獨り傖夫を笑ふを得んや俊髦と自負し才子と自負する學生中にも往々此の如き者あり謂らく政治學さへすれば政治家となり得べし法律學さへすれば裁判官となり得べしと日々國會法を讀み英國憲法史を讀み代議政體論を讀み地方制度論を讀めり英獨佛の法律學を講究せり吾人は專門學校に於て法律學校に於て往々此の如き學生を見る。

然れども青年學生中に此の如き者あるを怪む勿れ吾人は自稱紳士自稱老成家中に於ても亦政治學法律學等器械的の學問のみを修めて堂々たる政事家法律家の如く心得居る人あるを認むるなり請ふ看よ我黨は智識に富み經驗に富み財産に富めりと廣言する者あるに非ずや大農論を唱へて小作人を苦めんとする者あるに非ずや是れ皆共に聖賢豪傑の事業を談ずるに足らざる者なり。

古今の聖賢豪傑が最も深く注意せしものは何ぞや豐臣秀吉が無學無藝の一布衣にして能く天下を一統したるは何ぞや宋の趙普が論語半部を以て天下を治めたるは何ぞや孟子は何を以て大賢人なるや魏叔子は何を以て文豪なるや諸葛孔明は何を以て眞英雄なるやチエル、グラッドストンは何を以て大政事家あるやセーキスピアー、サッカレーは何を以て有名なる小說家あるや細川賴之小早川隆景黑田孝高勝安芳諸氏は何を以て智者なるや德川家康新井白石橫井小楠福澤諭吉木戸孝允諸氏は何を以て活眼家なるや皆人情に明なるのみ。

或は曰く大久保利通氏が參朝する前には必ず鏡に向ひ威儀を修整することに一時間餘を費したりと然らば何人にても威儀を修整するとに一時間餘を費せば同僚を凌ぐ程の勢力あるべきや又曰く西鄕隆盛氏は僧月照を欺て共に海に投じたりと然れ共西鄕氏をして私學校生徒の爲めに生命を捨つる程の情誼

あからしめば安ぞ月照を欺き殺すことを得んや。

交際家が人に逢ふや必ず笑顏を作り溫言を吐き先づ姓名を問ひ生國を問ふ然れども交際家の笑顏と溫言とをして器械的の動作ならしめば忽ち他の姓名を忘れ生國を忘れ二度も三度も同一の人に向つて姓名を問ひ生國を問ひ其薄情不親切なることとを看破せられん、宗敎家は善く祈禱し善く說敎す然れども食物惡しきが爲め忽ち不平の顏色を爲し浴湯薄きが爲め忽ち苦痛の叫聲を發すれば其所謂安心立命は眞實にあらざることを看破せられん、政事家が平生如何に沈重を擬し溫厚を擬し泰山前に崩るとも愕かざる如き顏色を爲すも一旦事あるに臨み錯愕狼狽して平生の用心を失ひ國家問題を以て黨派問題と爲し譏誣擯排を以て最上の政略と爲すことあらば忽ち僞老成家たることを看破せられん。

若し唯人情を知るのみを以て足れりとせば韓非子は孟子に優れりと謂ふべしゾラはユゴーに優れりと謂ふべし爲永春水は曲亭馬琴に優れりと謂ふべし然れども人は唯人情を知るのみを以て足れりとせず必ずや人情を重んぜざるべからず。

人情を樂む者となるべく人情に縛らるゝ者となるべからず情を制する者となるべく情に制せらるゝ者とあるべからず善く他人の情をも觀察すべく自己の情をも觀察すべし奸雄の如く輕薄才子の如く探偵の如く酷吏の如く他人の情を煽動し誑誘し若くは枉曲して自己の私慾を遂ぐべからず他人の溫和ある顏色を見れば其妻子と嬉笑せし反影なりと思ひて慶すべし決して嫉妬の念を起すべからず他人の悲慘なる顏色を見れば其家族團欒の快樂を得ざる明證なりと思ひて之を憐べし決して厭惡の情を生ずべからず或る點より見れば老人の如く見へ他の點より見れば小兒の如く見ゆる人物あるも是れ不完全なる社會に產出したる不具者なることを知れ決して之を以て老人の如く不愉快なる人物、小兒の如く無智無經驗なる人物と做すと勿れ。

蓋し人物の高下は人情を重んずるの程度に因て分る眞に人情を重んずれば完全無缺の人間と謂ふべし己れ糟糠を食するが爲めにして人に精肉を食はしむることを得れば糟糠も精肉より甘美あるを覺ゆべし己れ襤褸を纏ふが爲めに人に錦繡を飾らしむることを得れば襤褸も錦繡より艶麗なるを覺ゆべし己れ炎天に晒され積雪を蹈むが爲めに人をして凉樓に眠らしめ煖室に坐せしめば炎天雪路も凉樓煖室より快きを覺ゆべし火中より苦める者を救ひ出すことを得ば假令之が爲めに己

れの手足を燒きて生涯を不具の身と爲すとも日夜天使に抱かれ居る如く快からん若し火中に苦める者を救ひ出さゞれば己れの生涯は火中に坐するよりも苦しからん人を安飽せしむる爲めに己れ餓死すれば天使に抱かれて眠るが如く喜ばしからん若し己れ安飽せん爲めに人を餓死せしめば日夜鞭撻を受くるよりも苦しからん人をして妻子團欒の快樂を得せしむる爲めに無妻にして生涯を終るも何ぞ疚しからんや若し己れ數妻を娶りたるが爲めに内に怨女あり外に曠夫あらしめば良心の痛苦如何ぞや。

吾人は支那土兒其の貴族が多妻を娶るを見て彼等に良心なきやを疑ふこと久し彼等の國には一夫一婦の建白を爲す者なき乎假令之れ有るも聞かざる爲ねして用ひざる乎之を聞く彼等の居室には稼穡の圖を陳列せりと彼等は稼穡の圖を觀て如何なる感覺を起すべきや果して下民の疾苦を察し得べきや三伏の炎日に晒されて面色漆の如くなりし經驗なく寒中の積雪を蹈みて足指切れ去る如き經驗を爲さゞりし貴族にても其聰明英敏の資質を以て能く下民の疾苦を察し得るや否や犬猫の戲るゝ圖を觀ると同一般にして何の感覺もなきが如きことなからざるや否や其僕婢が主人の德を輝さん爲めに故らに斯る圖を陳列するにあらざるや否や貧民が其愛兒の爲めに一枚五錢の圖畵さへ購ひ與ふること能はざるを知らずして如何なる貧民にても二十圓位の金を所持せざる筈なかるべし抔と言ふことなきや否や嗚乎不具者は憫むべし最も憫むべきは良心の不具者なる哉。

俚語に曰く「泣く子と地頭には勝たれぬ」と蓋し泣く子と地頭は如何なる無理をも通すなり之を相手とする者は他の無理なるを知りながら之に勝つこと能はざるなり然れども地頭に勝ち難きは力足らざるが爲めなり泣く子に勝ち難きは其泣くとの理否に關せず弱を憫むの感情を催して止まざればなり故に地頭も亦た泣く子には勝ち難きなり嗚呼天下の最も恐るべきものは社會の最も下層に沈づめる極窮極愁的の絶望者なる哉若し此の絶望者をして悽愴なる顏色を以つて悲慘なる言辭を發せしめば如何に無稽なる論旨にても世人の感情を激動せん是れ實に恐怖戰慄すべき次第に非らずや國會開設も益々切迫し來たれる今日、政事家諸君は最も人情に注意せざるべからず。

母坐籃輿兒草鞋、　阿箸與慈相傳杯、　小歇野店學嘗菜、　兒献母酬咲顏開。

（山陽外史）。

## ○基督教男女論（其二）

廣岡浩聲

五、近親結婚論　玆に近親結婚論の文字を掲出するも今日醫學上に稱するものとは少しく異なる處のものなり醫學上のものは血統上の近親にして衛生的に禁止するものなり而して聖經の稱する處は義理上の近親にして倫理的に禁止する處のものなり然れども其の中には血統上の近親も包有せらるゝを以て此に此の文字を用ゆるの不可ならざるを自信するなりモーセの法に曰く爾親戚に就て其の躰を觸るべからず爾の父の躰爾の母の躰及繼母の躰は爾之れに觸るべからず爾の姉妹爾の子女父の姉妹母の姉妹及孫子女兄弟の妻女子女の結婚者共に其の肌を觸るべからず之れをなすは惡事なり(利未十八ノ六ヨリ以下)と之れ等はモーセの當時行はれし風習の亂れたると後來將に起らんとする惡事を考究して法律の中に加へたるものにして世間普通の道德吾人の可認する處のものなり彼は倫理的に命令せしと雖ども何時しか衛生上に好結果を致せしものたるや疑ふべからず吾人は往々近親結婚を見て慨嘆に堪へざるものあり一は破廉恥的の淫行に驚き戰慄せしこともあり又一は衛生上の不都合の爲めに惡ふるものありき前のものゝ如きは万人の擯斥する所なれども後のものゝ如き今日尚ほ多く行はるゝ痛嘆に堪へざるなり。

六、一夫一妻論　社會漸々に進歩して文化愈開け人倫稍正に歸せんとするに當り一夫數婦一婦數夫の家族は追々に排斥せられ之れを蠻族の中に計算寬流せらるゝに至り隨て人倫一夫一婦の制を重じ民法上又之れを認めらるゝに至れり古來數多の學者ありて一夫數婦を主唱せしもの或は默可せるもの少からず然れども今日社會の事を思ふもの法律學者より社會學者に至る迄で一夫一婦を至當の配偶となし進化主義の人物すら之れが自然配合の理なるを認可せり而るに聖書は數千年の昔日に在て此の事を主張し確として動かざるを見るなり神の男より女を造り兩立して一躰たらしむるの本旨全く之れにあらざるはなし(創二ノ十八ヨリ)キリスト亦說て曰く元始に人を造り玉ひし者は之を男女に造れり故に人父母を離れて其の妻に合ひ二人のもの一躰となるべし(馬太十九ノ五)とポーロも亦口を揃へて曰く人は父と母を離れ其婦に配ひ二のもの一躰たるべしと(弗五ノ卅一)彼の監督を戒めて一個の婦の夫なるべし(前提三ノ二)と云ふも執事に命じて一個の婦の夫たるべしと(前提三ノ十二)云ふも此の制に出でざるあらず左れば聖書は飽くまでも一夫一婦の制を主張するものあり而して其の說たる都合的に出づるにあらず理論的に考ふるにあらず理科學以外に立て全能全智の有識造物者の創造據理せし處なりと斷言強論す故に一夫數婦を娶るもの一婦數婦に嫁するものに對して論ずる處を見るに曰く彼も亦た已れの爲めに數妻を娶るべからず(復傳十七ノ十七)又ソロモンに關して其の數妻を蓄ふを戒めらるゝものあるを見る(列王上十一ノ一、四)新約に至て一夫は一婦の他に見るべからず若し之れを見ば姦淫なりとせるものありポーロの一夫一婦論即ち之れなり然るに予は少く疑はざるべからざるものあり聖經は神意を旨として一夫一婦を主張すると雖ども舊約中に顯はれたる數多の人物を見るに往々數婦を有するものあり最も高名なるアブラハムを始めとしヤコブの如きありソロモンの如きあり其他舊約を讀む處の人は慚愧する許りなる怪事少からず而して神は之れを不問に付し却て其の人及び其子孫を保護するは如何なるものぞ甚だ怪疑に堪へざるなり古今聖經を註解するもの之れを辨護立論するあるも予は一も滿足すると克はず如此ふれば聖經は一夫一婦の制を可とするとと雖ども一夫數婦を默許するものあるが如し甚だ不完全の經典なりと稱すべし然れども之れ等の事情新約に至て全く絕滅しキリスト以後隔然として別異なるを見れば舊約は默許の中にありて新約は嚴禁の中にありと云ふべき乎。然れども此の一夫一婦の說はユダヤの經典よりキリスト教會の取る處となりて希臘羅馬の法律の中に加へられ佛蘭士民法の首位を占め英米の法律にも加へらるゝに至れり始めは全く聖經上の教理なりしも今は法律上の認命する處となれり之れ甚だ族制上人倫上に合へるものにして社會組織上尤も切要なる事件なり吾が邦古來結婚の正しからざる多しと雖ども一夫數婦の實今日に存するは慨嘆に堪へざるなり一夫數婦は賣買主義なり奴隷主義なり器械的なり到底全躰の思想起らざるなり眞愛の心情興らざるなりポーロの所謂る此の如く夫其の婦を已れの身となして愛すべし婦を愛する者は已れを愛するなりとの實情豈起すべきや決して起らざるなり夫れ人間の情は極めて單純なるものにして其の愛心の如きは極めて偏頗なる單獨のものなり博愛の如きは殆んど望むべからざる事なりと云ふべし故に愛情の點より云ふも一夫數婦は合理的のものにあらざるなり雖し來れば雜多の議論勃々として起り思はず聖の書外に出でて喋々せしもの少なからず然れども之れ予の感情の切なる爲にして敢て附加するの贅言にもあらざるべし時あらば他日詳に細論する處あるべし。

七、夫妻の義務　聖書は夫妻の義務を論じて妻なるものは夫に貞順なるべきを教ゆるのみならず夫に命じて其妻に深切なるべきを教ゆる處のものなり則ち相愛し相助け主の臺前に立つべきを示す處のものあり使徒ポーロ懇々論して曰く婦なる者よ主に服ふが如く已れの夫に服ふべし夫なる者よ其の妻を愛すべし夫其の婦



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

を己れの身となして愛すべし婦を愛するは己れを愛するなり己れの身を惡むもの曾て有るヿなし（弗五の廿二）と又曰く妻たる者よ其の夫に從ふべし此は主にあるものゝ爲すべきヿなり夫なる者よ其妻を愛すべし苦を以て之れを待つ勿れ（哥羅西三の十八九）と彼得も全意を表して曰く夫たるものよ爾曹も妻を遇ふヿ弱き器の如くし理に循ひて之れと同く居り之れを敬ふヿ生命の恩を嗣者の如くすべし是汝の祈禱に阻礙なからん爲めなり（前彼得三の七）と神又モーセに命じてイスライルの衆に告げしめて曰く倘し別に娶る所あらば則ち衣食と好合とは悉く減ずるを得すと（出二十一の十）ポーロも亦曰く夫は其の分を妻になすべし妻は又夫に然すべしと（前哥七の三）之を以て之れを見る聖書は明に夫妻盡すべきの義務を教ゆるものなり而して互に力を盡し心を盡し相顧みるを要す思ふに吾人人間たるもの婚して常に斯くなさざるべからず妻を以て奴婢視する陋風は好む處にあらざるなり彼は妻を他人視するものなり妻を奴隷使するものなり何ぞ此の家族の中に爛漫たる花あらん又何ぞ五味の美あらんや花なく美なし随て益する處あらざるべし夫妻たる者互に益して快樂あらんが爲めなり已に此の二の性質を失ふ夫婦は則ち夫婦にあらざるなり。

八　男女の地位或は夫妻の位置　　世に女權論者ありて曰くキリスト教は男女を全等視するものなりと又キリスト信者ありて曰くキリスト教は男女を全權視すと此の旨往々世間の人口に膾炙し米國の如きに至りては婦人の權甚た強く其の位置却て男子を蔽塞せんとする勢あり又生意氣論者ありて女子の地位を男子の上に進めんと欲し切りに聖經を引用するものあり然れども予を以て聖經を觀察するに聖經は決して男女を全等視するものにあらず又た全權視するものにあらざるなり素よりキリスト教は平民的の宗教なり全然主義を採れる宇内的宗教たるは明白なる處ろにして敢ふべからざるものなりと雖ども男女に對する聖書の教義は世人の稱揚する處とは甚た異るを見るなり然れども予は甚だ茲に困難するものあり何となれは男女の權理なるものを定義するヿ之れなり蓋し權利は財産上保護上合體上に含有するものにして法律上之れを分析すれば或は聖經上の權利と差異する處なき克はず故に予は單に男女の位置なる語を取て論說すべし創世記に神の女を造る目的を記して曰く人獨り居るは善からず我將に之れが偶を作て以て寞しきを慰めんと（創二の十八）ポーロ曰く夫れ男は女より出でしにあらず女は則ち男より出でたり男は女の爲めに造られしにあらず女は男の爲に造られしなりと（前哥十一の九）以上の旨は以て女の男のために造られしものなるヿを明にするなり已に女の男の爲めに造られしを明にせば其の主權者は男子にして女性は其の補助たるべきは明白なりとす然れども之等未だ其の地位を例するに足らずとせば尙此の事を見よ神のエバを罰するに當て之れに言て曰く汝は必ず夫を戀ひ夫は必ず爾を治めんと（創三の十六）ポーロも亦曰く女の首は男なり（前哥十一の三）爾曹の婦人等も教會の中に默すべし彼等の語るを許さず彼等は律法に云へる如く順ふべきものなり若し學ばんとする處あらば室にあつて其の夫に問ふべし蓋し婦女の教會に於て語るは恥づべきヿなり（前哥十四の三十四五）婦は宜しく主に服ふ如く己れの夫に服ふべし（弗五の二十五）蓋し夫は其の妻の首なればなり（弗五の二十三）故に凡の事順ひて靜に道を學ぶべし我れ婦女の教を施すヿと男の上に權を執るヿを許さず婦女は只だ安靜にすべし（前提二の十一二）幼き婦女には其の夫を愛し之れに服ふを教ゆべし（提多二の五）とペテロも妻なる者よ爾曹其の夫に服ふべし昔し神に依頼し聖女も其の夫に服ひて此の如く己れを飾れりと（前彼三の一と五）而るにポーロ尙ほ曰ふあり妻なるものよ其の夫に從ふべし（哥羅西三の十八）と以上の旨を一々含味するに到底婦人が男子と全位置のものたるを認むる克はず男子の婦人を治めんとは之れ治者と被治者の關係なり治者の權被治者に超越するは勿論ならずや男は女の首なる語又克く離ず彼のポーロ、ペテロの言ふ處の順（オベーデンス）服從（サブミツド）の語を比較するに彼の順なる語は柔順の意に解すべしと雖ども服從の語は其の全等の位置なきを示すにあらずや試に之れを男子に比較せよ夫なるものよ其の妻を愛すべし（哥羅西三の十九）と又曰く夫なるものよキリストの教會を愛し其の爲めに己を捨て給し如く爾曹も婦を愛すべし（弗五の二十八二十五前彼三の七）と聖書中男子の女子に對する分を示すに何ぞ女の男に對すると異なるや男には其の婦を愛すべしとのみ教ゆれとも未た曾て服從の文字を用ゐるなり而して婦に向ては其の夫を愛すべしと勸むるのみならず服從の言を以てするにあらずや之れ明かに男子の位置の女子より高等なるを示せるなり女子の地位の男子より下等となすものなり況んや男子の上に權を取らんとする如きに於ておや由しやポーロは時と場合とによりて教訓を垂るにもせよ此の男尊の思想は到底奪ふべからざるものなりと云ふべし況んや嚴格なる神命あり且つペテロの助言あるに於ておや左れば如何に辨解するも聖書の言ふ處を滿足せしむる克はざるべし彼のコミント前書十一章を讀で婦人の頭髮の事を見るも如何にもポーロの女卑說を取りし樣




Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ふべからず而るに喋々として聖書の全等論を唱ふるを主張するものは抑も誤謬の至りならずや彼の一躰說は決してポーロの議論を打ち消すに足らざるなり左れば思ふに世の同權論の根據とされるものはキリスト教にあらずして他に由る處あらざるはあらずチュートン人種の婦人を尊敬せる習俗漸くキリスト教に入りてキリスト教の占有する處となりて中古以來大に婦女を尊敬し今日に至て愈其の地位を高め社會を高尚に導くに至れり之れ甚だ人間として至理なる道理にして苟も人間たるもの男も女も全等なるべきは固より當然なり女子を卑視するは自然に之れを賤むるの思想を與し遂に社會の秩序を亂るの基元なり故に予は社會より人間より思惟するに男女全等は甚だ嘉すべき美事なりとす然れども之れに由て聖經は同等說なりとは云ふ克はず例令聖經は全等說ならざるにもせよ社會上人間上至理至當のものは之れを實行する敢て厭ふ處にあらざるなり。

第二　離婚論

予漸くキリスト教の結婚論を終はるを得て茲に漸く筆を離婚の篇に移すに至れり將に簡單に論述して筆を捨つべきなりキリスト教は甚だ結婚を重し之れを美事となし又男女合して一躰たるを示すや前篇を讀むもの丶明かにする處なり隨て又離婚を重するは教理上自然の勢なり姦淫の故にあらざれは容易に離婚を許さすキリスト曰く姦淫の故ならで其の妻を出すものは之れに姦淫せしむるなり（馬太五の三十二）又曰く姦淫の故ならで其の妻を出し他の妻を娶る者は姦淫を行ふなりとポーロ曰く夫生ける間は妻法に繫かるなりと（前哥七の卅九）エホバ曰妻を棄るとは我之れを恨むと　馬拉基二の十六）此他示す處甚だ多し。扨て聖經は結婚を重すると全時に離婚を重大視して容易に許さゞるを見るべし歐洲巾羅馬法中には聖經を基とする民法ありて離婚結婚の事を取り扱ひ佛國も亦た離婚制を聖書に取りしとあり其の法を見るに全く聖經と反する處あらず然れども之れ甚だ不自由なりとして革命以來離婚の自由を許せり東洋今日の風俗は結婚の重すべきを知り乍ら實際に至ては甚だ輕忽なるを免かれず三々九度婚を池の汀の鶺鴒に結て其の酔夢未だ覺めざるに妻君佇然として父母の家の門を叩くに至るとは如何に浮雲の世なればとて甚だ惡むべき風習ならずや識者は之れか爲めに力を盡さゞるべからず。

以上の二篇は最も簡單にキリスト教の男女論を結末せしものにて聊か愚意を挿さむ迄のものなり顧みれは予の主意とする處中ば貫徹せざると雖ども余りに紙數を重ねんとを恐れ此に筆を捨てゝ後日丁寧に論する所あらんと欲するなり。（完）。

## 批評

○和歌を纎弱ありと云ふ說を評す　雲峯子

經に曰く「喜ぶ者と共に喜び悲む者と共に悲め」と實に所以ある哉蓋し人喜ぶ時に當り共に喜ぶ人を得ば其喜はいやまし悲む時に於て共に悲むの友を得ば其悲みは減じ心中大に慰むものある可し、然れど喜べるものは強し悲める人は弱し、彼は亭々として中空を衝く大木の如し是は露に惱める女郎花の如し彼は日の如く自ら燦爛たる光輝を放ち是は月の如く他より光を受けずんば將に暗憺慘黑たらんとす、一は獨立するの力あり他は獨立する能はず、一は人の助けを要せす他は同感同情の友を求む、是喜ぶ者と共に喜ばず悲む人と共に悲むの必要ある所以あり。

水に溺るゝ者を救はんと欲せば身自ら水中に入らざるべからず火中に在る者を助けんとせば須く先づ火中に入るべし如斯悲む者を慰めんと欲せば眞實眞情を以て悲まざる可らず若夫れ快談樂語を以て玩具遊戯を以て悲哀に沈める者を慰めんと欲せば是橋上に立て溺者を救はんと欲し對岸に在て火中の者を助けんと欲するの類のみ豈得べけんや然り而して喜樂の人と共に樂むは何人も容易に爲し得べき所にして天下萬民誰か

之を希望せざるものあらんやされど悲哀に沈める人と悲しみを共にし其情より是を慰愉する友に至つてハ凡人庸夫の甚だ難とする處にして何人も之を望むものあらざるべし、昔しエルサレム人の罰せらるゝやエレミヤ之が哀歌を作て歌て曰く「彼れ夜もすがら痛く泣き悲みて涙面に流る、其戀人の中には之を慰むる者獨りだになく其友ハ之に背きて其仇となれり」と嗚呼是實にエルサレム人に於て獨り然るに非ず、古來萬國萬民の人情實に然るあり嗚呼憐べし世間幾多の不幸の徒、薄命の輩、想ふに彼等の中には一人の友なく孤燈影暗き處に獨り身の不幸を嘆じ中夜半宵夢魂薄命を喞つもの實に少なからざるべし、其外貌喜樂に其言語爽快なるが如き者と雖も萬籟寂として四隣音なく夜沈々たるの時胸に手を加へて深く考へ遠く顧れバ實に悲痛痛哭に堪へざる事後悔慚愧に忍びざる事多かるべし況や世間多數の悄然愴乎たるものに於てをや嗚呼涙！現世ハ實に涙の世といふも誇張の言と云ふべからず、是其悲痛哀慟に沈めるものを慰め不幸薄命に泣く者を救ふの必要なる所以なり而して和歌ハ即ち此悲める者悩める人を慰愉するの長所を有せり和歌ハ世上の快樂なる人と共に樂まんとするものに非ず只悲める者を慰むれバ足れりとなす也人或は難じて曰く和歌ハ優柔纎弱にして勇壯活潑なる所なしと余ハ之に應じて云ハんとす、是即ち和歌の和歌たる所なり柔弱悲悽の所ハ即ち和歌の長所なり本領なり特質なり、王公貴人の快樂遊戲を助けんよりは寧ろ貧苦悲哀に陷り世の不遇に泣く者を慰めんと欲する也是古來大家の秀品逸作多くは悲哀慘憺なる心事景狀を現はす所以也誰か和歌の柔弱悲愴なるを不可となすものぞ。

人心を慰むる和歌に二種あり、一は内よりし他は外よりす一ハパッシーヴにして一ハアクチーヴ也彼は悲哀に沈める人の自ら其心事を和歌に詠出して大に慰愉する處あり是ハ他の人より悲める人の心事を推察し其同感同情を和歌に寓して以て其心事を慰むるもの也和歌は漢詩と同じく之を文章言語もて説明解釋する能はざるの妙味を有するが故に之を以て自ら其悲哀苦痛を訴へ亦他の人より之をシムパサイズせらるゝ時ハ實に云ふべからざる愉快を覺ふるものあり、源氏物語に或憐れなる女が、

山賤のかきほ荒るとも折々にあはれハかけよ瞿麥の花

と詠ぜしが如く亦夕貌となん云へる女が、

さきの世の契知らるゝ身のうさに行末かけて頼み難さよ

と云へるが如きは自ら其悲哀を訴ふるの歌にして若彼女が實在せしものとせば其時の愉快は實に云ふ可からざるものありしならん亦香川景樹翁が最愛する妻を失ひ獨り籠居して悲哀に沈める時、

小夜更ておくほとゝぎす人知れぬ涙は君がそでに落らん

花鳥にまぎれぬ君の悲しさをなぐさめかねて春も行らん

と詠じて之を送りし人ありき是他より翁の悲哀を推察して同情の意を述べ以て其悲哀を慰めたるものなり思ふに翁がかゝる和歌を送られたるは心中云ふ可からざる愉快ありて千萬金を得たるより嬉しかりしならん余の親友某不幸に遇ひ常に世のあぢきなきを喞てり嘗て述懐なりとて、

仇波にたゞよふ泡の憐にもよるべなき身と今はなりぬる

と詠ぜしが其時は悲の中に非常の愉快を感ぜしと常に余に語りき以て和歌の長所は纖弱悲愴なる所にあるを知るべし既に之が其長所たるを知らば亦其功用は世の不幸薄命の徒、苦痛悲哀に沈める輩を慰むるにあるを知るべし、誰か和歌の纖弱悲悽たるを咎むる者ぞ。

## ○歌舞技座の俗說美談黃門記

井上二郎

女學雜誌記者足下、御誌第百八十七號に於て演劇上の感化と云へる一篇を拜讀し、多年の頑骨も少さか軟らめる心地し過る七曜日偶々歌舞技座を一覽いたし候。其際心付たる廉々左に認ため差上候、若し餘白を貸され、該座長よ見らるゝやう、又た世の演劇改良家の參考とも相なるやふ、紹介なし賜わらば幸に候。

此度のは舞臺ならしさの觸れにて、固より改良したるものにあらずとは、座長も公言し世も許す如くなれど、其は只だ一應の辭義にて、既に古河默阿彌原作、福地源一郎添削とあり、且つ以て其の初舞臺に演ぜらるゝものなれば、彼れも深く許す所ろあり、我も細に評する所ろありて然るべきことゝ思へり。概するに失策なり、遺憾々々と呼ぶべき所ろ少なからぬが、共割に亦た作者の苦心を察すべき所ろ頗ぶる多し、必竟するに之れ改良の二字に掛念したる結果なりと思へば、改良と云へるものを重んずる吾黨は先づ改良ふる者の爲めに辨じ置かざる可らず。之を一言すれば理解の所ろ多く、痛感の所ろ少なく、全曲單調子にして變化に乏し。

第三幕目に於ては光國卿、僧正大目附御勘定奉行等に向つて詰問辨難し一場の大演說を爲せり、四幕目に於ては町奉行川口攝津守、船頭河童の吉藏を吟味して一場の感ずべき說教を爲せり、六幕目に於ては藤井丈右衛門、紋太夫を切諫して一場の悲しむべき申開を爲せり、而して僧正以下も同じく恐入り、吉藏も恐入り、紋太夫も恐入り、一々同樣に恐入りたり、其上菊五郎の吉藏を吟味したる攝津守は左團次にて、紋太夫の菊五郎を叱りたる丈右衛門も同じく左團次なり、之を以て同一の說教者が役を替へて幕毎に出場し勸善懲惡の法話を爲せる心地したり感心なりとは思へれど少しも趣味上の面白味はなかりき。更に宜しからぬは、男女の愛情、並に子供の愛情と云へる者の極めて少なかりしと也、魚賣久五郎が縛に就くときのお富、紋太夫酒色に耽るを諫め遂に憫れむべく自殺するときのお卷などは、夫婦間の愛情を示す風覺の處ろなり、特に其一は或は未通女らしく或は粹に通じたるなどの女氣を現はし、其二は賢夫人たり武士の妻たるの女氣を現はすに最上の役たるに係らず、久五郎の爲に泣きたるは父元礙にて則ち親子の情を辛ふじて現はし得しのみお富に至ては淡なると氷の如くにてありし、特にお卷に至ては淨瑠璃も入り、夜の景色も助け、コヽゾ觀客の腸を溶るほどの愁歎あるべしと思ひの外僅かに二三語を述べ、一滴の淚をも落させずして直ちに隱れぬ、是何たる事ぞ、更に甚しきは全體に一人の子役すら出さず、彼の棒ちぎりを振廻し犬を追かけたる十四五人の子供の外、一回も幼者の仕打を見せざりしは最大の失策也。

最と淸き愛情、最と憫れむべき幼な心こそ、芝居道に於て穿つべき最良の題目なれ、此の黃門記は二つながら之を欠き、而も演說めき、說法めける勸懲の話を



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

三回迄でも出したり、之を以て興味索然、調子無變化にして、事を〆る毎に常に評子拔の氣味ありし。

但し光國の教戒は慷慨警物として頗ぶる毒氣あり、「言辭一々時弊に中る」、啻に之を昔日の爲めにのみ感ずべきに非ず、攝津守の訓解は何如にも巧みなり善く人情極奥の糸に觸れ人を動かすと共大なり若し斯る名奉行今日にあらば監獄の爲めには最上の幸福ならん、其他光國全曲の主人公たる裏面より當時の政況を映出する處、而して光國の下にも尚ほ紋太夫ありて內に非望の企を爲すもの常に存するの理を示す處ろ、英才一と度び身を誤まりて文武の長所悉く埋沒せらるゝ處ろ、哲理を教ゆると深し、坐ろに心あるものをして長歎せしむ、之れ蓋し櫻癡居士が添削に苦心せし處ろなるべし。

舞臺の結構十分なり、但し初舞臺の爲めとは云へ、音樂、景色等のこしらへ甚はだ不十分なりしは惜むべし、演劇は諸美術の共進會場にて、音樂も、繪畫も、文章も、雄辯も、舞踏も皆な此の舞臺に於て陽發するなり、今后の催うしに於ては、今少しく其等の爲めに、注意ありたし、三階に運動場めきしものは出來しが、日本人の通病たる、家內に青緣を置くの工夫少しも見へず、何卒所々の間き場に植木鉢にても置れたし。

此度の入り少なきは種々の元因あるべし、左れど其の一大元因は興味薄きの故に因ると云はざる可らず、蓋し改良は面白味を減ずるものにあらず、其面白味をして一層高尚に清潔に滿分にあらしむるもの也、故に只だ舞臺を以て演說場說法壇となす如きとなく、深く人情を穿ち、特に人情中最高尚の處ろを穿ち觀客をしてアドマイアせしむる已ならず、エンテレストせしめ、シムメサイズせしめ、倏忽我を忘れて泣き、胸うち、感謝し、絕叫せしむるの妙に至らんとを祈る。而して改良演劇の忍耐は一二回の小入に驚かざるにあり、今日上流の士君子は芝居に遊ぶとなし此等の士君子は眞の改良行わるゝを見て初めて出遊するなれば、此等士君子の出遊する迄は勢ひ見物の少なきとなるべし、然るを只だ一二回の小入に驚ろきて俄かに其趣向を下くゝする如きとあれば、改良演劇の特處何くにかあらん、人は二人の主に兼仕ふる能はず、上等の好みに應ぜんとせば下等の愛顧を棄てざる可らず、「新橋藝妓中座長さんに」の如き引幕は今后寄進し得られざるに至るを此座の爲めの幸榮となす。

以上は只だ大躰に就て言へり、細かきとは別に言わんともせざれど、終齣光國紋太夫を手打にして直ちに「幕」と召び、血刀を下げ、謠を歌ひ、沈着、且つ凜々として能舞台に舞ひ出る狀何如にも秀でたり、この一事は申し置かざると能わず、此れ全曲を振蕩するの趣向にして、又た團十郎に取りて無上の適役たり、此段に至りて光彩万丈を發ちぬ。

# 雜錄

## ○年逝かんとす　しのぶ

早や年末とありぬ、顧みれば一年を何事に過せし乎、思ひ出すは身に冷汗するとのみにて、天に向つて報ひ奉まつりし善事はいと〳〵少なし、德の進むは丈の伸るよりも遲く、邪念の簇がり起りしと毛髮の數たび斷ちて忽まち生じたる心地す、世人は云く汝ぢの事業斯程迄に進めりと、風說は云く汝ぢの名譽は斯程迄に高まれりと、左れど其は余が內なる人を喜ばすに足らず、夜深けて寒月澄み雁なき渡る、默想して祈るとき、何處にか世人世評あらん、たゞ極高聖絕の天、一の榮光を下して余が良心を照すのみ。

## ○淸き英傑、リービングストン　秋しの

ダビット、リーブィングストーン(David Livingstone)は亞非利加の搜索者、博愛の義人、忠實ある傳道者として其名萬國に轟けり、氏は千八百十六年三月スコットランドのラナークシヤーに生たり余はいま氏が傳を叙する非ずと雖も其幼時よりの氏が經歷に對して、少しく述るとを許せ。父は農家の主にして家富るに非ず、母は至て節儉家にて氏が十歲の時にグラスゴーの某製造塲に職工として遣られたりと云、然れども幼



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

時よりして讀書を好み晝間の工作を終れば夜學校に趣て學事に志を傾け些少の間隙もこれを浪費せずひたすら自修を務めたり、其後エディンボルグに於て敎育せられ終にロンドン傳道學校より醫師傳道者として亞非利加に趣けり。リーブイングストーン嘗て英國にあるの日天を仰いで歎じて云ふ文明の國に於ては幸に眞正の宗敎行はれ敬神正義の念深きも悲ひかな彼の印度に於ける亞非利加に於ける蠻民は何人か敎を傳ふるぞ余は朝夕野蠻人が罪に唸くの聲を聞けり余は起居常に彼等が救を呼ぶの叫びを耳にす我れ何ぞ彼等の亡ぶるを傍觀し得や盟て蠻族傳道の任に當らんと。遂に氏は白皙人種の未だ夢想だに爲しがたき蠻地に身を置けり而して氏は其見聞する處の事實を蒐集して屢々本國に報ぜり、氏は亞非利加內地に一萬英里の旅行をなし大小の諸山、湖沼、河流の位置を詳らかにし、蠻族の都府あるリンザンティ(Linzanti.)及びアンゴラの都(Capitar of Angola.)を發見せりこれ等の搜索は地理學天文學の上に少なからざる利益を與へたりと、今日亞非利加內地に傳道するの好都合を得たるも亞非利加內地の產物を輸出し得るも實に氏の力によれり。氏の報告が英國に着する每に人々みな氏の大膽あるに驚けり其后氏は一編の書をも寄することなかりし爲め、米國に於けるニューヨーク、ヘラルド新聞社はヘンリー、スタンレー氏をしてその追縱に從はせたり、是實に千八百七十一年二月四日なりき、スタンレー氏は焦心苦慮のゝちに同年十一月十日に於てアフリカの內地あるタンガンイカ(Tanganyika.)に於て漸くリーブイングストーンに面會せり氏が英國を去りし日は壯快健全の人ありしもスタンレー氏が會せしの日は既に白髮蒼顏の人なりしと。氏は半生を亞非利加に費やせり而して千八百七拾三年三月四日中央亞非利加のアイラ、(Hala.)に於て死せり。氏の死するや憐れなる草小屋の內にあり枕に手を置て跪きたる儘死せり、リーブイングストーンに一僕あり固より蠻民の一人なりしも氏に從てのちより敎を信じ常に氏を愛し氏を慕へり。余リーブイングストーンの日記を一讀して氏が鋭意希望信仰耐忍の强固絕大なるを歎賞する久し、雨に曝され風に櫛り、猛獸の攻擊、毒蛇の呑噬、土人の襲擊を蒙り、饑渴の强迫に墜入り、徒步に洗足、眠るに樹陰、死地に漂泊して身を亡さんとする其幾回なるを知るべからず、宜なるかな英國の青年は、氏が高節偉大の精心を追慕して每家リーブイングストーンが傳記及び日記を藏せざるものなしと。

### ○何如にして良人の愛を得べき　山下石翁

其秘訣は万人の聞たがることにて、亦万人の考え得ぬ所です。或る御婦人は、娘の時は彼の此のと心配したれど、モウ子供の一人もあつて見ればお化粧したりとて鬼に五粉を塗つたやうなものとあきらめ、毎日無頓着な風姿をして内の人しか見るものもないに何しに飾りましやうと言わぬ計りに殺風景なのは甚だ善ないことです。　或る奥さんが某と云ふむかしのお友達を尋ねた處ろ、其お方は立派にお化粧をして身成を取つくろひ、シヤンとして構へて御座るから、チヤツ、あなた何方へかお出掛？と問ふに、イエ何處へも參るので御座いませんと云ふ、家の内にあつても常に斯く立派にして居らるゝと悟りて、アナタまあ外へも出ないのに誰れに見せようつてそんなお目かしをするの？、と問ひましたら、其お方は甚と不審相にながめて　デモ貴方、私しはモウ良人に見てもらうより外に何處にも見てくれる人はありません、と答へた相です。

之は只だ身なりのお話しですが、總べて此心得さへあれば、夫婦は万々年も仲が好いです、兎角慣すぎて禮を失ない、言語にせよ、行狀にせよ、風采にせよ、餘り無作法にあるより遂に厭くと云ふ忌わしきことも出來、厭くと云ふ心があれば左程になき事もイヤになるので之が即ち不幸の元因となります。家康の語ばに、新枕の翌る朝の心地を忘るなとありますが、古人が男女別ありと敎へたも必竟此處の主旨でしやう。

### ○寒氣と女生徒　山下品軒

昔しの女は多く家の中に在り、特に家の中で座つて居りし故へ、今の如き着物にても宜しかりしが、今日の樣に出歩るくことが多くなり、特に女生徒の如く一日テーブルにかゝつて居る人は腰より下が非常に冷へるものです。或る人が其寒さを歎じて、丸で天井から兩足をブラ下たような心持がすると云ふたは、實に思ひ遣られます、斯程に腰から下が冷えるゆへ、數多の病氣が起ります、荻野女醫の說に、今の婦人病は十に七八其元因は之より起ると云はれましたは尤ものことと信じます。着物の風を急にかへるとは出來ますまいゆえ、差當り下バキを穿くのが宜しいです、フランネルか木綿の下バキをはき、兼て申す如く下着をペチコートの風に丸ろく仕立てゝ纏へば少しも見へませず且つ甚はだ温たかです、是非左樣になさい、御兩親方も是非おすゝめなさい、或女學校では既に生徒惣躰に其旨を勸告して一の內則とした程です。



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

○乳の飲ませ方

左は婦人衛生會に、緒方正矩君が演說せられたるもの、筆記より一部分を抄出したるものなり。

乳は小兒が生れたときから何の位の時間を置きて飲せれば宜しいかと云ふに是れ日本でも西洋でも同じとの仕來りかあります、日本では赤兒に暫時は母の乳を飲せずに所謂マクリなる者を飲せ西洋にても「カミツレ」と云ふ藥を用ゆるものがあります。

日本で謂ひますにマクリを飲ますれば腸の中にある不潔物などを下して仕舞ますから飲ませる方が宜しいと云ふことを申して居りますが、併し四日も五日も飲ませるには及ばん生れた始め僅かの間飲ませて於て其後母の乳を與へるが宜しい、日本では一日だけ乳を飲せずに置く風習がありますが、併し小兒に生湯を使ッて遣ッて一度充分に眠り覺めるに至りては乳を飲せて差支へは御座いません。

又母の乳は產後直ちに出ない事が御座います、其時は僅かの間牛の乳を以て與へても害は有りません、併し是れを與ふるにも水を割て與へなければなりません、其割方は牛乳一分に水三分位いを入れて、是れに少し砂糖を加へるのです。

乳を飲ませる度數は如何にと云へば、初日には三回乃至四回にて足りとす、二日目も三回位い、三日目より九日目位い迄は七回づゝ晝夜に飲ませるが宜しい、其次は三時間毎に飲せるか但しは又二時間半毎に飲ませるが宜うございます。

乳の分量は最も初には極て少量にして一回に二茶匙位いの者でありて、二日目からは一回チリレンゲに一杯位い飲ませる事となります、夫れから後になりまして五ケ月頃即ち百五十日位いになれば一回にチリレンゲを以て量れば七杯位いは飲みます、又乳を飲ませるには成るべく時間を定めて置いて泣く度に飲ませるのは宜しくありません如何となれば小兒は空腹の爲めにのみ泣くに非ずして其外に不快の事ありて泣き又之に因りて肺腦の躰操を營むを以てなり。

乳を飲んで居る時間は何の位いと云へば大概一度乳を飲むに十五分掛ります、而して乳を飲ませてから酷く動してはありませんと云ふは大人の胃袋で有りますれば則ち大きな袋が横樣になッて下がッて居りますが、子供のは丁度德利就中燗德利見た樣な形ちの胃袋で御座いますから、僅か動しても水が溢ぼれる如く乳を容易く吐出しまする故に成るべく身躰を動かさぬやうに注意仕なければなりません。

乳を飲ませたる後は水を以て乳首を洗ふが宜しうございます

之を忘れては往けません、左も無くば手巾を水に浸して以て其乳首を拭ふべし、殊に角乳首に附着て居る乳汁を淸潔にしなければ其乳汁が附着いて居れば母子共に衛生上の害になります。

乳を飮ませる時期乳に腫物が出來るのは乳首を強く吸ふとに因るか或は子供の齒が障わりて疵が出來る時にはゴムの漏い袋をはめて飮ませるが宜しい左すれば決して其等の虞れいは御座いません。

乳を飮ませる時分には、母親は強き酒濃き茶或は咖啡などを用いてはいけません、又未熟の菓物を食べては成りません。

日本では小兒に乳を飮ませる時日が大變長きに、西洋にては長くして滿一ヶ年位いの者にて、大概は九ヶ月から十ヶ月位迄で乳を離します。併し日本では二歲迄も三歲迄も、甚しきに至りては既に四五歲に至る迄飮ませる者が有ります、而して何時乳を離して宜しいかと云ふに充分齒も生へて食物も食べらるゝ時分にあれば元より母の乳を飮ませるには及びません、故に歐羅巴の風習よりも少しは長く飮ませても宜しいが、日本程長く飮ませるには決して及びません、乳を離す時分は暑き時は往けません、若し暑き時に乳を離しますれば直きに消化機に病が起り或は救ふべからざるにも至りますから夫れは注意せねばなりません。且つ乳を離す時には牛乳を以て換へ又其外の者假令ば鷄卵の黄身に重湯などをまぜて暫時の間用い追々他の食物に轉ぜしむべし。

## ○睡眠、夢、夢行

醫學士　三島通良

左は明治女學校に於て演説ありしもの、大意を筆記したるものなり。

### 一　睡眠

睡眠とは動物界には欠く可らざる一の生理的の生活機關にして此の機關たるや恐らく此の動物が世界に生存したる以來在りし者たるや疑なし。

然れ共下等動物に在つては睡眠と醒覺の間判然せず假令ば蛙及魚の如きは其の夜中靜居する間恐らく睡眠あらん又牛の如きは睡眠中と雖秣を再嚼する夜中斷へざるが如し。

又手睡眠中に在つては人類生理機能の內呼吸、血行、分泌等は悉く減少し特に智覺、反躰運動的又は精神機能の如きは一定の間に於ては殆んど皆無に屬す。

此の睡眠は元より一陽に來るものにては無く順序を逐ふて進み來る。故に人注意しつゝ眠らんとして之を試むるに、先づ人の談話などが漸々遠くなり微になる夫より片足の先鋒

けたるが如き感あつて足の有無不判然とある、ハテ無あつた歟など思ふとき又智覺もどり來つて足有る事を知り目覺む其内又々足のなくなり始めて既に腹部邊も無あつた心持するともはや眠つてしまふ此を反對に試るに夜中などに於てフト目を發す時は只だ己の頭あるとを知りて手足軀幹の位置を知ると稀あり此等は各人何時にても自ら經驗するとを得べし。

睡眠を區分して三とす、

一　假　睡　Sumnolenz

二　熟　睡　Sopor

三　昏　睡　Coma

此れ其の度に因つて區別したるものにして假睡の覺め易く且夢の多き、熟睡の覺め惡く夢の少き、昏睡は既に病的にして死に入るの道なり精神機能の如きは漸々睡の深所に達して益々皆無となる熟睡は常に若枕後一時乃至二時半の間にあり。

されば此の熟睡間ハ全神經機能殆んど無きを以て所謂全半腦を抽出したる動物に同じき觀をなし、盜賊の入りて衣類を奪はるゝを知らずあど云ふは此の間に在り。

人類は幾許の時間を睡るを以て足れりとあすかの問題に至つてハ實に確答に苦む普通之を定めて三分の一晝夜とす則ち八時間あり又六時乃至八時間を度とすなどの說あり姙婦の如きハ特に睡眠の時間に注意すべきものにて其の委細の譯は一々載せて拙著はゝのつとめ親の卷にあり又た小兒睡眠の事に付てハ子の卷に委しく記せり就て見るべし彼のナポレオン大帝の如き其睡眠の時間は僅かに三時間を出でず羅馬の大帝ケザルも亦二時三時の他を睡らず獨逸のフリードリヒ大帝は常に五時間を睡りしと此れ只其の習慣によるものにて他に理由なし例之バ夜る睡りて晝働く如きも皆習慣にて夜をのみ働く動物（余は之を動物と云ふ）は晝睡るを以て常とす、されど夜睡の人が晝寢をあすは沙汰の限あり。

其他冬蝨の如きは一定の間全く睡るなり病氣として不眠症の如きありヒステリー性嗜眠性の如きもあり。

人は何故に睡らねばならぬかと云ふ問題を說くに當つてハ先づ睡眠の理由を知るを緊要とす。

二　睡眠の理由

プライエル氏の說に依れば大腦が官能をあしたる後其の出成したる分解物例之ば乳酸鹽の如き睡眠の理由たりと乳酸を皮下に注入するときは動物眠に就く。

第二　此ハ心臟の休間肺臟の休間の如きものにて大腦官能の

休間なりと。

第三　身體及精神の疲勞より來因すと此然り、されど此は一個の誘因に他ならず素因は他にある可し奈何となれば疲勞を抑制するときは睡眠を發せず。

第四　同時に繰返したる同音の精神上の刺戟例之ば兒守歌、背を打くときの如く、

又時計のサゲフリを見詰るときの如し。

或る靴師の小兒生來一目一耳なりしが此の小兒の一目一耳を覆ふときは忽ちに眠り之を開けば覺む。

第五　麻睡術、此は一定の手術にて人を睡らするものにて此には云はず。

第六　麻睡藥

右の內第一因を以て尤も確實なる健體睡眠の理由と認む然る時は人の睡眠たるや彼の大腦中に蓄積したる分解物の交換を爲し、再び大能の官能を作さしむる生理的機關に外ならず。

三　夢及び夢行

夢は必しも睡眠中にのみ來るものに非ずして平常と雖も來ると多し支那人が寤夢と名付たるは此の者ならん。

プライエル氏の說に從へば夢は一の精神異常にして所謂狂の一種あり其故いかにと云ふに一方に對して充分なる隨意的運動を爲せ共其の目的たる常に正しからず或は全く根據なき事を見或は爲し其の危害を知らず。

例令ば死したる人に遇ひ、翼が生へて飛ぶあど其他次に說かんとする夢行の如きと之あり。

然れども一回も見たることなき者を見るとは無し例之ば生來の盲目者は色の付きし者を見るとなし。

夢の中には聽、視、嗅、味等の官能は不充分なり例之ば食事等を爲せ共其の味を知ると少し。

或る女の眠りし者に付て之を試驗せしに、

香水を鼻の先に持行けばアルコホルランプを取れと云ふ。

顏に水を灌ぐと雨が降り來れりと云ふ。

布の端にて觸るれば狐の尾と云ふ。

吹いて遣れば風が吹いて來たと云ふ。

然れ共非常に遠隔なる感じはなさず。

又た夢の內には時なし、

ナポレオン大帝の寤睡一秒時間に埃及に大軍を行り之を征服し歸りたる夢を見、或る米國の紳士は新婚夫人の柩を送

り其墓所を守りて十年も睡りし心持にて二挺の蜜蝋燭を食ひ盡せしに僅に其の時間は十五分ありしと。

四　夢行

夢行は屡ば夢と伯仲するものにして身躰手足を隨意に動かして自ら之を知らず其の行爲殆んど正當の精神機能を有するものゝ如くして之に正しき目的なし。

佛國の或る武官は夢中朋友と爭を起し其の末終に决鬪となり互にピストルを取りて發砲したるが其の音にて始めて眠の覺たる事實あり。

或は夜中知らずして屋上に昇り又は馬に鞍をきつゝ乘り廻し翌朝其の馬の汚れたると鞍をきたるを見て家人を訝り自ら乘り出したるを聞て愕くなど諸々の奇談あり。

此等の運動は實に十二分に隨意筋を働かさざれば、出來ぬとあるを正當の知覺なくしてなすと實に不思議と云ふも餘りあり又た恐るべき事にこそ。

## 小説

### ○伊太利の佳人

第三回

ゲーテー著

愛軒居士譯

豪商は妻と商賣上又は一家の事に就き種々相談せし後少時ありて復た曰けるは、

余は卿に向ひ尚ほ僅か心にかゝる一事あり卿よ願くは自由に之を語るを許せされども余の言ふ所を誤解することなく余の配慮も却つて余が卿を愛するの信實心より出ることを察し給へ、

妻

そは妾も大抵推し能ふなり吾々婦女を常に弱き者と思ふは男の性質なれば郎君も其爲に御配慮めさるなり郎君は今日まで妾わを唯だ年若く喜樂者と御思召ものから郎君の留守中には妾が必らず輕忽に他人の誘引に迷ふべしと信じ給ふあらん斯く疑ふは郎君方男の常なれば妾とても郎君を誹り申さずさりながら妾が知り得るだけの妾の心にては假令如何なる事あるも左程容易く妾の感動を惹起すと能ず万一妾の感動を惹起し得る事あるも妾が今日まで愛情と義務の手に添ふて徘徊せし道より妾を誘ひ去るほどに勢力を逞ふする



Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

となきは妾が今日郎君に向つて確言し能ふなり郎君よ決して配慮爲し給はるな郎君が常々暫時の間外出あり晩に家に歸る時は互に手と手を攜へて和悦ぶ如く如何に長く離るゝとも郎君の再び歸國ある其日には必ず妾が喜悦と信實とを見給ふなるべし。

夫 余とても固より卿の心を信ずるなり只後來其心の變らざるを願ふのみよも卿の身にはあるまじき事なれども世には非常の場合に出會するも多ければ人の取越苦勞も無理ならず卿も知れる如く卿の艶麗なる姿容は實に無數の年若き都人の注意を惹けり余在らざれば渠等は卿の爲に今日よりも尙ほ一層の辛苦を增すなるべし渠等は百方卿に近づくの策を講ずべし否卿の好意を得んことを謀るべし斯る場合に遇はゞ卿が夫の肖像は夫が限前に在るが如く能く渠等を卿の戶外より又卿の心より放逐し得るか卿は固より操心高き善き兒ありされども自然の要求は其勢力强くして逆ふべからず不絕吾人の智力に向つて戰端を開き通例之に打勝つなり卿よ余の言を中止し給はるな卿は余の不在中には假令義務に從ひ余が身を思ふの時といへども男女相親むの望を抱くべし余も一時は卿が情願の物躰となるべきも如何なる境遇の來るも知れず如何なる時機に逢ふも計られず余が長き留守の間には余が想像したる事を實際に之を收獲するの人あるべし尙ほ少しく忍んで余の說を盡さしめよ。

卿も斯る場合の來るを否み余も亦た決して之を早めんとは願はざれども卿若し男子の伴侶なくして永く留り能はず戀愛の快樂を欠く能はざるの場合に遇はゞ余に約しおくべき事ありそは他の事ならず必らず浮薄の少年を擇んで余の代りとなし給ふな浮薄の少年は一時は方正なる品行あるが如くに見ゆれども其實婦女の德義を害し殊に其名譽を傷くると甚しく己れの情感よりは寧ろ生意氣の爲に制せられて婦女さへ見れば其好意を得て吾こそ眞の情郎なりと誇り一度婦女と情交を爲すも忽ち他の婦人の爲に之を犧牲に供し是實に當然の事なりと思へりされば卿若し情慾に堪へずして朋友を得んと欲し給はゞ遜讓寡言にして隱德を施し以て情緖をして益々濃厚ならしめ決して朋友たるの名に負かざるの人を穿鑿し給へ、

婀娜たる妻は最早胸にせまる苦痛を忍びかね堪へ〱し溜淚一度にドッと溢れ出で啼聲あげて熱心に夫を抱き。

郎君は妾を如何に考へ給ふとも郎君の實に死るべからずと

思召せる罪ほど妾の身より遠ざくるものはあらずぞかし妾は決して左樣なる罪に近かず若し郎君の宣へる如き思慮の露聊も我胸中に浮び來るとあらば地は自ら開きて妾を呑み去るべし又吾々が快く此世に存在するを得る天福の望も妾の身より奪はるべし郎君よ願くは妄信を去り妾をして郎君と不遠互に手に手をとりて再會せんとの清潔なる希望を得させ給へ、

豪商は樣々と吾妻を慰め翌朝いよ〳〵船に乘込みしが航海最とも幸福にして直に「アレキサンドリア」に着せり。

跡に妻は安全に大なる財產を有するものから夫の留守ありとも何の苦勞もなく氣隨氣儘に其の日を送りけりされども只だ家内に引籠り兩親々戚の外は誰一人にも面會せず夫の事務は皆兼て信用厚き番頭に委任してありければ其身は大なる家に住居し壯嚴美麗なる室內に坐して日々に夫の身を幾度となく思ひ出でこれを此上なき樂とせり。

# 寄書

○歌舞伎座の見物　破月居士

無理鉛と云ふ鉛先きさすがの勇士もあしらひかれ評判高き歌舞伎座の舞臺慣した

一見せり、根が田舍者の事故先づ場內の結構に氣を拔かれ役者の上手なのに膽を拔かし、歸り途に懷中を拔かれ成程東京は生馬の目を拔くような所だとボンヤリ歸宅せしに友達より何か改良演劇に付て評されよの御命令、さても無理なる人達かなその事ばかりは御辭退申せど許されず、全體拔ける人物が氣拔の上にかくなれば手拔のあるは知れた事それさえ御かまひ下さらずばと過日上を笠に着て田舍者の恥をありの儘にかき付ると然り。

劇場中の最美完全せるものと(但し我が東京中、フランス英國のオペラは申さず)は歌舞伎座なりと申すべきか先づ事務室應接室の設けありその上に反響(エコー)の御注意にて圓天井も大したものそうして三階棧敷と來て居れば是れ迄の芝居より特別に目立て立派なり、冷々子と云ふ御方傍にありてアノ圓天井に筋の這入たのは少し……と申されたが多分音聲の反響を妨ぐるとの事なるべし破月居士は先づ北擣道に對しては申す言葉もなしこれが田舍者の一證とや申すべき、道具立萬端定ためし機痴居士の御意匠なるべしとは申せいま少し天然の光景を寫されし背割が欲しかりし吳服橋の場に於て土手の上から向ふの町家を見せた具合はどうも犬公方樣の御代とは思はれず矢張り明治の吳服橋らしく思われたりそれに他の芝居と違た處なら薬頸なうなだれた松がそろ〳〵白赤くなり居りしも目立ちたりある人は魚屋久五郎が親子の分れを無情の松迄が感泣せしとの辨護さても〳〵町奉行の御屋敷にて障子の所に破れたるも可笑し。

しかし水戶家の御座敷にて竹林七賢人の襖、奥御殿獅子の大戶などは御立派の事なり、役者の批評はあらましに致すべし團十郞の黃門樣老巧したとの御言葉なれどなか〳〵考へのありそうに見ゆるが玄碩が差上候御菓子御賞翫の折しも林請が立てし茶に毒のあるを見附て今一服と御かわりの來る間御菓子を見つめて餘り考へらるゝ故かさては菓子にも毒があるのを黃門樣がかん附たのでは無かと、かわいそうに玄碩親子を疑がひたり文屋の康秀大切に大負けのおどりこの人が一番長かつた長かつたために少し閉口いたせり左團次の黑主が頭を出したと云ふ迄なればチットわけてもよさそうなものなり、いつもながら沈着に無口に勉めらるゝには感服、左團次の攝津守が吉殺を說く所或人は感心したと云はれたが破月はさのみにも思はず當人が腕一ぱい骨を折らるゝも作者が腕の足らざるために破月が吉殺なれば殘念ながら白狀は仕らず、しかし紋太夫の叔父になられた時は意氣込が十分に見へたり菊五郞の吉殺何にしても感心勇み肌のお兄いさん流が此の先



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

生の適役故惡いと申しては相濟まず、命を助かるのが以前の望み悔てのちは命を捨てるのが望みとはテモ人の心は……裁判の所の口前は攝津の守の友達か、あるひは出入の車夫が話しに均しくあまりなれ〳〵しく思われたり紋太夫が叔父に貶められて悔ひたる躰ウソか眞か始めのうちは分からざりし、叔父が密書を以て訴へると云ふに閉口してそれでは仕方がないとの決心はマダ〳〵信じられず、外よりの責めに仕方なく〳〵その悔改めは眞心よりの悔改に比しては何の役にも立ち申さず、松助の支碩自然ならず役者が支碩を務めて居る如し、福助の魚屋久五郎チト……三年前におふくろが死んだ時にも泣かれ、私は今日と云ふ今は有難涙がこぼれます云々はあまりに目立て聞えたり、御ふくろが死だ時なかぬと云ふ久五郎とは思われず此の芝居の中で一番泣くのがこの親子なれば也り、總じて淡泊にまたパイチグラヒイカルの御趣向なれば無味と申す外なし役者は面揃ひの方なれば尚居御趣向の巧拙によりて御繁昌は疑ひなし外の役者も多けれど細評するに及ばずと存ずれば此の位にて御免を蒙るべし大切の六歌仙少しも感心せず、また〳〵改良の點の少なからずいづれくわしう申すべし、マー御女中方は御らん遊ばすなとは申さぬが御覧なされとも御すゝめは致しがたし。

樽正町　あ　さ　女

### ○辨妄

女學雜誌の第百八十八號に雁陵居士と云ふ人がありまして兎筆錄と云へるを投書されましたがチト心得られぬ次第が御座ります第一の處世の秘訣はマアよろしいとして第二「滊車に乘るには」と題されて、

決して下等室に乘るを勿れ若し多言なる書生が乘り居る時は忽ち世間に吹聽して某氏は下等室に乘り居たりと言はん實に冷汗濕背的の事にあらずや。

トいはれましたが其位ひの事で冷汗濕背とは誠に氣の小さいお話でさなきだに外飾に而已傾いて居る今日其樣な御論をあそばしては困ります妾の良人などは常に好んで下等滊車に乘りますそれは儉約ばかりではなく乘客の談話など聽くにつけ能く下情に通じるからです。いま一ツ外飾奬勵の御論が見へました則ち第三「人に信ぜらるゝ方法如何」と題されて、

（前略）人に信ぜらるゝ方法如何鬚髯を飾り衣服を飾り言語を飾り擧止を飾るに在り偏屈なる學者は人に信ぜらるゝは眞實に在りて虛飾に非ず抔と言へども決して然らず。

ト云はれましたが遂ひますなるほど蜷川新左衛門の狂歌にも「一休も破れ衣で出たならば乞食坊主と人や笑わん」とか詠てありますがそれは人を知らざる者又己れを知らざる凡眼の見た處で妾は「眞正の良藥は金箔を要せず」と云ふ諭の力を取ります實に外飾で得た信用は直に覺ますが眞實で得た信用は決して覺ません妾の良人が近頃の狂歌に「黑塗の車で外を行く人の內をのぞけば火の車なり」とはチト酷なやうにも存じられますがマア左樣です分て妾は追々商家の外飾に而已走てまゐりますは慨かわしく存じます先哲の語にも良賈は深く藏すとやらくれ〴〵も雁陵居士さま此樣な外飾奬勵の御論はお止を願ひます第七の「自稱道德家に」と題された一章は敬服いたします。

### ○小說家？賤府家？

天牢囚民　K. N.

今の小說家は微菌小說家なりとは某醫學士の言なり蓋し其用標の（一）は「バチルレン」の如く（！）は「バクテリヤ」の如く（：）は「ミクロコッケン」の如く（：）は「コンマバチルレン」の如くにして且つ傳染性を有するが故なるべし余は思へり小冊家寧ろ或は賤府家にあらざるかと何となれば一二の大家を除くの外は偶々片紙斷節の見るべきもののなきにあらざれども多くは府間屋の隣著的射利を主とする者なればなり女學子以て如何と思し召す。

## 答書

拜啓陳者近頃廢娼及び遊廓制限の議漸く世の注意を惹き起し去二日の東京府會に於ても廢娼論起り既に議題として採用するとに決議相成候に就ては數日以前小生か地方の知友某氏の質問に答へたる左の書翰は此際或は御參考にも可相成歟と存じ机下に呈し候

伴　直之助

○根津を洲崎に移したる理由、當時府會に於ける議事及び廢娼に於ける府會の議論等御質問に付左に大要御答申候

前畧根津を洲崎に移さんとする議案は「洲崎海面新地築造費」の名義にて明治十九年六月東京府臨時會に附せられ府の共有金中六万餘圓を以て洲崎を埋立て之を遊廓に貸付んとするにあり、當時區部會は一旦廢棄せしが、府廳は直ちに再議に附し

遂に四十三名に對する貳十二名即ち登名の過半數を以て議決せり議事に先ち理事者(銀林書記官)の曰く根津の遊廓は來明治廿年を限り取拂を命ぜしに依り之を移すとすれば家屋の建築に日子を要するが故に今より之に着手せざるべからず且つ貸座敷の如きものを正業者と雜居せしむるは施政上不都合なるを以て成るべく其の地を劃し取締を設けんとす」と又其所議に附たる節の理由に曰く洲崎を築造して之に遊廓を移すれば府民に利益ありと信ず第一諸川の浚土にて埋立つるが故に費用を要せず、第二永遠堤防の破壞を防き、第三遊廓の區域を限るの計畫を全うす云々而して當初該案廢棄の主たる理由の第一に曰く此邊は怒濤の恐あれば埋立工事は危險なり、第二に曰く共有金は斯の如き事業に用ふべからず、第三に曰く區部會は遊廓を保護し遊廓の地主資本家たるべからず云々即ち第一は地理上より、第二は共有金の性質より、第三は遊廓保護の嫌あるより、議案を非とせし也、其第一説は四十五番(佐藤正興氏)廿五番(前議員尾崎行雄氏)五十二番(前議員高雄孫磨氏)等主として之を論じ、第二説は九番(神田良邦氏)十八番(前議員關直彥氏)五十番(志摩萬次郎氏)等主として之を論じ、第三説は十三番(前議員渡邊又兵衛氏)十五番(小松崎茂助氏)等之を主張し口を極めて遊廓保護の不可なるを論じ終に廢娼論に論及せんとせり、又六十七番(前議員福地源一郎氏)廿五番等も此第三説に與して大に其勢援を副られたり、右十三番渡邊又兵衛氏は賄賂事件の起りし時毅然として曰く東京府會腐されたり」と終に袖を拂て職を辭し、十五番小松崎茂助氏は本年通常府會の初め賄賂者を退職せしむべしとの議を起せしに衆議員の意見は調査委員の報告を待つべしと云ふに在りしに之をも耐へ兼ねけん即刻病氣とありて爾來一回も府會へ出席せざるなり思ふに東京府會が此質直ある二人を失ひたるは不幸とや云はん、そは兎に角、蓋し遊廓に關して我が東京府會の議論は此時を以て端緒を開らき、二十二年度賦金收支の權を府會に托せらるゝに及び漸く歩を進め廿三年度に至りて廢娼說の起るは適當の順序なるべしと思はる、去り乍ら十九年六月の臨時會には此第三説は十三番、十五番等の熱心なる論辨ありしに拘らず未だ議會全躰の注意を惹くに至らずして已み、廿二年度に至つては彼の忌むべき賄賂事件起りて人心幾分か厭き氣を起し居るやの趣あり殊に地方議會が斯の如きとを議決すると適當あるや否やに付きて大に議論有之候故本年度に廢娼論の起るや否やその邊は豫め今より計難し、然し

ピット、ウイルベルフォース等の奴隷解放論に於けるが如く王家皇族も反對し財産家知己朋友も背き、十數年の間議院に敗を取しも猶ほ自若として自說を主張せし精神を以て廢娼論者が此の動議を提出する時は遂に "The whole House were prised into a forgetfulness of its ordinary habits, burst forth into acclamations of applause." の時必ず來べしと信じ候。

尙一言すべきは根津の遊廓の洲崎に封じ込まれしより本鄕區邊の風儀自から改まり空氣も淸潔になりしとは一般居住人の信ずる所なり去り乍ら告ぐるものあり、彼の湯島天神とか云ふ境內の近傍に猶ほあやしの婦女(休み場とか茶店とか稱し)出沒し、あやしの音聲を發して散步通行人を引き込よし若し果して然らば東京府廳は何故に先きの英斷を以て之をも一掃せざるや是れ小生共の疑ふ所あり。 (後略)

# 時事

## ○兒島高德

彼の櫻樹に忠名を遺したる兒島高德は、實際當世にわらざりし人物にて、太平記の作者兒島氏が想像に成れる一個小說界の幽靈なるよし、博士重野安繹氏は論辨せられ居りしが、昨今に至りては博士も大に悟る所あり、前說の誤まりなりしとを者ば發見せられたりと云ふ。

## ○岡山孤兒院

吾人は過日岡山孤兒院の某氏が明治女學校に於て其事業に付演說せられたるを聞けり、發起者は只管ら仁愛の念に滿ちて挺身率先し、一の資金なく只だ熱心を以て之を始められたり、現に養ふ所ろの孤兒六十餘人あるよしあるが、或る時は全く食料無くなり、滿院の保姆も教師も子供も僅かに粥を啜りて日を送りたるとすらある趣なるが、亦不思議にも助くる人ありて漸やく今日に至れるよし、吾人之を聞きて轉た彼のミウレル氏の熱信を思ひ合せ、眞正の事業は決して黃金によりて成らず、辨說によりて成らず、利巧によりて成らず、但だ誠意仁愛の忠情を以て成就すべきとを知れり。某氏口吶にして辨甚はだ貧しかりしに、之を聞きて全校感激し、或は金を投じ衣を脫し編物を義捐して彼の年幼なる女生巾より忽ち十八九圓の義捐を爲せりと承はる。

## ○目下の美術諸會

目下東京に於て組織せる美術の諸會を列擧すれば先づ日本美術協會、東洋繪畫會、日本繪畫協會、鑑畫會、東京彫工會等



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

なりとす、此諸會は其孰る所ろの主義格別にして互に相容れず恰も封建時代群雄割據の光景あり、然るに今年我明治美術會の更に其間に勃興するあり知らず此四分五裂の諸會は今后何如なる盛衰を現出し去るを。試みに豫想するに最も世用を足す者は何會の事業なるべきや、衣食住の皆日々に西洋風に倣ふの今日に於て能く之に適應して益々需要を増加し愈々繁盛に赴くは何れの事業なるべきや、能く社會今日の景狀を万世に傳へ明君賢臣の威容を千歳に遺し后世をして欽慕措く能はざらしむるものは何れの事業あるべきや、未開時代の古法に束縛せられず又區々たる一筆一點の小技に拘泥せず細かに人情世態を寫して人間無量の感慨を發露し看者をして感泣せしむるは何れあるべきや、極めて僅少なる茶人閑客の僻に偏せず能く全國多數の人目を喜ばしめ公衆の喝采を博するは何れなるべきや、五年十年の后に至り著しき進歩を顯はし内外人をして稱贊措かざらしむるは何れなるべきや、凡眼には未だ知る能はざれども識者は必らず首肯するなるべし、我輩は天下公衆の刮目して待んを望むものあり（明治美術會第二回報告）。

○繪草紙屋の變遷

近來繪草紙屋の店頭を見るに從前とは全く一變し其陳列の過半は石版畫となれり、又同業者の話を聞くに從來の錦畫にては都下にて一二を爭ふ程の名手の筆に出るに非れば賣捌け甚だ宜しからず、之に反し石版畫あれば其畫品の何如を問わずサッサと捌け行き今日にては賣高の四分の三は石版畫なりと云へり、而して此石版畫なるものを見るに畫題と云ひ畫風と云ひ陋劣眞に厭ふべきの極點にして迚も西洋風の畫中には算入す可らざるものなれども猶ほ其氣配如此し（同　前）。

○東京府會に廢娼論起る

去二日の府會には五十一番議員小高官吾氏廢娼の建議案を呈出せられたり、田口卯吉氏贊成して之を問題とせんとに同意す、須藤時一郎氏の議により發案者更に其意見書を精細に筆記し后日再たび呈出して議案とすべきや否やを論ずるに決す、嗚呼府下に在る滑徒、其の大に盡力すべきの時機正に到著しつるぞ。

因に云ふ、東京婦人矯風會及婦人白標倶樂部よりは、各別に右廢娼に關する建議を芳野副議長の許迄差出置けり。

○群馬縣會

群馬縣會に於てはいよ／＼廢娼に議決し、其建議を知事に呈出するに付き、去廿七日細野議員の立案に據り、左の五氏を

擧て陳情委員とし、議員の輿論の在る處ろを陳べ併せて知事の意見を聞んとす、

宮口二郎　高津仲二郎　湯淺二郎　野村藤太　天野宗忠

而して聯合上毛靑年會は、右建議が知事の認可を得る迄は運動を停止せざる事、及び廢娼に關する統計表島田三郎氏の演說筆記縣會に於ける傍聽筆記等を一冊子に取纏め廣く同志者に頒布するの計畫あるよし、一膝していよ〳〵大運動せらる、るの盡力に至つては實に感佩に堪えず。

○刑事被告人

去る廿七日の東京府會にて番外が大岡議員に答へられたる處に由れば、刑事被告人の數現時二年刑以上のもの一人、一年以上の者九人、半年以上の者六人、二ヶ月以上の者四十六人、一ヶ月以上の者二百十八人、十日以上の者二百三十六人、一日以上の者百八十人、外に女四入人なりと、但し二年以上の者は公判廷に於て發狂して取調方の仕方なきもの、一年以上の者は控訴中の者なるよし、斯く取調の延滯するは種々の不都合あるをゆへ、田口議員は右延滯の理由取調方を常置委員に托し且つ府知事より其筋へ迅速に捗取檢督促相成度旨建議すべしと述べ多數にて可決したり。

○穢多よりも汚なり

政黨の爭ひ一に何んぞ此に至る、さて〳〵悲しみに堪えざるとなり、我國に於て第一回の退去條例施行せられしは東京あるが、此頃に至り突然其第二回を斷行せられたるは熊本にてある也、同縣下政黨上の爭ひは實に頂上に達し、最早や士君子が聞くに忍びざるの景況となれり、試みに其一例を擧れば、國權黨に屬する獨立新聞は云く、

海西日報記者は皆穢多根性を有し、古莊幹實はいよ〳〵、穢多頭なり……以后海西日報社員が出遭りするときは必らず下足に注意あらんことを。

又海西日報に稍や類同する熊本新聞に對しては、

熊本新聞が構造の虛既新聞、寓晉新聞、解間新聞、稱持新聞、子ボケ新聞、繁業新聞等種々樣々なる綽名を取りしとは弘く世の知る所なり。

海西日報の之に對するや亦左の如し、

昔し孟嘗君が養ひたりし群小には鷄鳴狗盜の人ありたるを聞きしが今當地の保守黨が團結する群小は決して鷄鳴狗盜の小人に止まらずして法を破り禁を犯し內狀世を害するの暴徒を以て充されたり。

嗚呼文章は千古の事なり、此等の辭は何んぞ只だ現代の同胞にのみ恥づべきとならんや。

○新平民

民權を伸ると云ひ、自由を張ると云ふものにして、尙ほ穢多新平民を別視するものあるに至ては、其陋見憫れむに堪へたり、吾人は彼の光民居士が、曾に大阪新平民の代議員たらんとするのみならず、現に其一婦人の婿となれるを見て大いに喜こぶもの也。

○時務小史

自由黨再興の事

自由黨は明治六年板垣退助氏が朝を退ぞき高知に隱れて彼の立志社なるものを創立ありし時に淵源す、以來立志社は全國自由の曉星ともなり指南車ともなりしが明治十六年に至り集會條例の爲に止を得ず解社するに至れり、之が爲めに高知の有志者及び全國の自由民權家は相連結して一の政黨を搆成し明治十四年の冬東京に於て之を發表し名を自由黨と稱し板垣退助君を以て總理と爲したり。然るに集會條例の爲に黨員全體の運動整わず間ま規律に外れて亂暴するものあり其害は延ひて自由黨全體に及ぶの憂ひありしかば止を得ず遂に之を解散するに至りぬ、但し其解散は形體上の自由黨を解くと云へるとにて精神上に於ては依然元の如く自由黨なるもの存すと云ひしとなれど固より全黨を統一するの規律と云ふ可きものもなく只だ板垣伯の名望其中心となりて全國自由家の思想を吸收し居りたると也。

然るに昨廿一年の夏頃より後藤伯四方に驅廻りて慷慨の演說を爲し國家危急存亡の秋に際すと揚言して志士の睡を覺破せしかば、元の自由黨員及び同臭味の人並に從來何の政黨にも加入したるとなき東北の有志者多く之に贊成し所云る大同團結なるものとなれり、而して此等贊成家の中央事務所となれるものを東京倶樂部と云ひしが、本年春に至り此倶樂部の組織を一變し大同團結を以て純然たる一の政黨と爲さんとの議論ありしに、半ば之に同意し半ば之に反對したり。其同意したるもの即はち大同團結を一の政黨政社と爲すべきとに贊成したるものは彼東北の有志者、後藤伯親近の人々、竝に元自由黨中の穩和派の人々なり、之を政社派大同倶樂部と稱しぬ、又不同意したるもの即はち之を政黨政社と爲す可らずと主張したるものは純然たる元自由黨員にして特に其中の急進派竝に板垣伯親近の人々尤も多かりし也之を非政社派大同協和會と稱しぬ。故に政社派は大同團結を直





Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ちに政黨とすべしとの論を有し、非政社派は他日自由黨を再興すべし大同團結の如き雜駁なるものを政社に爲さんやうなしとの論を有したるとゆへ、右政社非政社の二派に分りたると同時に自由黨再興の徴候現はれしと也。然るに斯く二派に分るゝとは宜しからずとて様々に之を仲裁するものあり、板垣伯も勸告し、片岡健吉氏も盡力したれど遂に其効なかりし折柄、彼の二派を辛くも抱合しつゝる東京倶樂部より政社派の多數の面々が一時に脫會したるより非政社派の人々も大に刺激せられ遂に大井憲太郞氏は高知なる板垣伯を訪ふて自由黨再興の事を勸めたるに伯も大に同意し遂に來る十七日大坂に於て奮友を會し相談せらるゝとさなれり。

群馬縣會廢娼の事

群馬縣は明治十五年既に同縣下貸坐敷禁止の建議を爲したるに、時の縣令楫取素彥氏は之を納れ明治二十二年六月卅日を限り廢娼の旨を達し置たるに、昨年に至り佐藤縣知事が之を取消し當分延期の達しを爲せしかば昨年衛生費を議するに當りて該會に非常の激論ありしとなるが廢娼論者少數にて遂に存娼に決したるに、今年に至り上毛聯合靑年會員の盡力により輿論大に動き縣會に於ては遂に廢娼の建議を爲すとに可決し衛生費中檢梅費の條項を議せざるとさなれり、此上は知事が之を認可するや否やと云ふの一掛念かゝるさ云へども知事も亦た同縣下の輿論を忽諸にせらるゝとあるまじ、扨て此の議案に對する該縣會議員の種類分左の如し、

○廢娼建議に起立せざる者

田中信太郞、新井春吉、小島邇一郞、荒井啓五郞、江森和三郞、佐藤昰平、新井格太郞、久保田健次郞、内田源六郞、蜂須長五郞、小野善兵衛、野口茂四郞、黑澤信一郞、矢島八郞、木暮松三郞、南條新六郞、木暮茂八郞、佐藤昰平、(十八名)。

○當日欠席員左の如し

長谷川甚太夫、淸水永三郞、猪谷秀麿、松永楨右衛門、大戸作兵衛、山口六平、白石好、須田又八郞、松井八十吉、

○廢娼贊成員左の如し

細野次郞、多賀恒信、島田音七、野村藤太、宮口二郞、田村竹次郞、角田喜右作、長谷川甚太夫、三俣素平、折田軍平、矢島八郞、小林竹七郞、金井貞、天野宗忠、竹内鼎三、星野耕作、武藤道齋、高津仲次郞、嶋田重作、岡田譴吾、木暮武太夫、中島祐八、森田一作、齋藤壽雄、萩原鐐太郞、松本宗藏、宮崎有敬、井上淨三郞、生形柳太郞、澤田吉五郞、(三十名)。

○欠員は左の如し

森宗五郞、林貝作、森平三郞平、瀧原義雄、

## 開書

こゝもと暫し借用いたし候　編者

一　通信女學の事

何故通信女學を引續き發兌せぬやと、所々よりお尋ね又は御催促引も切らず、既に前號にも少さか其申譯は致し置たるとに候が、則はち來年一月より一ヶ年遍成の見積りにて普通女學を講義可致、其計畫も略ぼ調ひ候に付ては近日廣く申上る心得也、よりて此段前以て御披露いたし置候。

二　尤も便利なる廣告の事

本年終末の雜誌は廿八日發行の答なれども成るべくクリスマス當日に出版仕度との志願にて之を廿五日に發兌致すべく又來年一月初刊は四日の答なれども之を第一日に繰上げ即日帑上にて全國中に年頭の御祝儀可申上候。而して廿五日發兌の分にはクリスマスを祝し美麗なる圖畵面白きお談し等を揭げ手廣く配布可致、尙ほ來年初刊の分には近頃數多ある女文學者中尤も秀でたる方々の小說、詩、歌、文章、日本畵、西洋畵、等を集め大附錄と爲し出版可致候。因て右兩號中へ廣告あるときは委賴主の便利不少と信じ候何れも來る二十日迄に申込まれたく候。

三　最良の遣ひ物の事

近日極めて面白き繪草帋一冊出版いたし候、大躰はワンパク物語に似て更に佳なるものなり、其繪畫にチカシク面白く美くしく一見すれば子供に最良のなぐさみとなり細かに考ふれば哲學者をも感服せしむるの趣向あり、一冊十錢にて實捌可申クリスマスの遣ひ物又は歲暮年始の贈り品には甚はだ適當ならんと信じ候、二十日より發賣仕候へば精々御注文の程前以て願上候

四　無料にて女學雜誌を讀む法

此度廣く女學雜誌の通信員を各地方に募る、右通信員とは其地方に於ける女學上の景況を細報するものにて、平常女學雜誌を無代價にて貰ひ受け且其報道に隨つて相當の元稿料を受るものなり、望みある人は本月廿日迄に履歷書相添え申込(但し一地方に一人を限るに付可成早く)有之度候。女學雜誌社出版部報告部兼白す

## 交詢

問の部

(七)其土地に居らずして遠方の女學校の善惡を辨知する法方有之まじくや若し心得の箇條あらば教示を乞ふ(西京三本木石本)。

(八)何の新聞紙なりしか近頃西洋歸りの哲學先生にて人の骨法を見て其人の性質を判別し將來の方向に付ても得意の處を教示せられ且つ人の委賴にも應ぜらるゝ由承わりしが其人の姓名宿所を忘れ候何地の何方にてありしか敎を祈る(日本橋坂本町十七番地鎧谷)。

(九) 野生事血統極めて濇く又差したる病氣にも罹らざるに過般來不圖双眉共漸次大層に落ちたり現今にては先づ脱落止みたれど極めて薄くなり夫を以て血統故ならんなど人の疑はんもうたてく早速名古屋金城堂發賣の毛髮必生藥と云ふを購ひ試用せるに其効なし又半夏細末を擦り付けしに是亦驗なし若し直ちに眉毛を茂生せしむる良藥又は妙法あらば幸に教示を垂れ玉へ(河内國分紫川、拜願居士)。

(十) 姑舅が必らず惡しきにては候うまじく必竟姿わの足らぬゆゑと存じ候へども此の足らわぬ姿をして一家を幸に立ち兩方の御氣嫌を好くなし得るものたらしむる心得方候はゞ御敎へ玉わりたく祈り候(昔しの女生徒)。

答の部

二。私も數年前迄女學校の塾舍に居り傍に一家を持候處ろ殆んど一ヶ年間程は下女の使ひ方に困り候、先づ雇入るには左の要點を注意致度と相考申候、即ち 主婦より年少き者 幼少の時より實母の手に育ちし者 未だ是迄他に長く奉公せざる者 言葉數少なき者 右の件々に反する時は兎角主婦の命を奉じ申さゞる樣相覺候○先づ下女を使ふには常に何事にても命ずる前己れ下女の身に立かわり見て命ずる事 更に雇入る時は篤と家風并に其働きを一々教へ一ヶ月を經ば可成命ずる言葉は少くして手の行届きたる事は能く目を配り賞する樣致す時は下女は一々其働の主婦の目に留まりたるを喜こびて益々心を用ひ万事に能く忠義に働くものと相考へ申候 若し過ちありて叱る時は温和に理由を述て篤と得心致す樣後來を戒むべき事 叱る時に怒氣を帶び數時間も言葉を掛けざる如きは最も主婦たるものゝ自らが威を損じ又一家の損と考申候 常に一家の主婦たるものは勉めて温愛威の三德を欠ぬ樣致す時は其下に使るゝ者も自然其德になつく樣存候 私は右等の考にて近年は大分人を使ふ事には馴たる樣相覺ひ申候(京都女學雜誌一讀婆)

四。女子の職業に色々あり亞米利加などは郵便局出納局電信等に女書記になるもの多く、次には活字製造人又は活字ひろひ、其外一切の仕立屋細工人、植木屋花造等あり、尤も盛んなるは水夫となり船長となり代言人となり教授にもなり居るとに候、然し我國現今目下に於ての最も好き職業を問へば、上流に於ては翻譯、繪畫、音樂、諸美術、小學校教師、中流に於ては速記者、電信技手、筆工、縫物下流に於ては髮結、斷髮、店賣、等にて行われ易き事と存じ候(山下石翁)。

●左の手帋余り可愛らしきに付原文の儘を掲げます、

謹んで啓す未だ拜眉を得ずと雖ども芳名を耳にすること已に久し貴兄益々御奮發全國女學海の燈耀たる事を希望す。

愚妹岡山の片田舍に產し學校に入學すゝこともなく只慈母の膝下にありて學を受くるのみなりし。

明治十九年十一月岡山に女學校の創立ありたりと聞き入學せんと欲すれども歲十一に滿たざるを以て許されず甚だ遺憾ながらも伯父母樣の膝下にて養育せられ十一に滿るに及んでよび科に入る是明治二十年九月一日なり。

夫よりは東京の諸雜誌及び諸新聞を拜讀致しほゞ東京の有樣を知る然れども東京に於る各女學校生徒樣の事が拜見致したし願くは貴誌の餘白に於て東京近頃の女學生の事を御聞せ下されば幸甚昔前頃東京女生徒の種々なる風聞ありてよりは伯父母樣女子に學問させるは無益なと故お前も早くやめて針のけいこに行くがよろしひと種々御諭しのある故なり。

愚妹常に敬愛する一人の學友和文を學ばんと欲すれども程善き教科書なきを憂ふ聞く東京には和文獨案内と云ふ善き書物のあるを我岡山には和文に熟したる書物は殆となく依て悲み居られる由を聞き敬愛姉の爲に必ず和文獨案内を得て愛姉の悲みを慰さめんと欲す然りと雖も其書物の定價を知らず御手數ながら凡て貴誌に於て御知らせ下され又定價は餘り高價とは思はず僅かなる金なれどカワセにて送られればなりませんか外に方あらば教へ玉へ。

愚妹の宿所は旭東にありユウビン所は旭西にありてへだゝりもあれば一人にて行くとが出來ません。

又此事を父母兄弟に託せんと思へども愚妹不幸にして三歲にして父を失ひ十歲にして母を失ひ兄ありとも傳道地にありて今岡山にあらず託する便なし。

愚妹は伯父母樣の世話者なれば此人に託すとも出來ず愚妹ユウビン所に行かんと思へども前の如くへだゝりもあり又七時三十分より學校へ行き午後四時十五分に學校を閉じ夫より家に歸れば五時を過れば行くの隙なし故に善き方法あれば伏て願ふ教へ玉へ愚妹再拜。

十一月廿六日夜認む　在岡山　岸田不美子拜

女學記者殿本善治樣

東京女學生の事は近日より女學校評判記と共に掲げて御覽に入れ御問に答へましやう。和文を學ぶには下田歌子編和文教科書と云ふもあれど註解なければ分らぬ所もありましやう矢張り徒然草とか土佐日記とか云ふやうなものゝ註釋の本が宜しひです女學雜誌に其等一切の書物の目錄を添へますから其中からお撰びなさい又一層くわしく御申越次第學力に應ずるやう當方にて撰びても差上ましやう。爲替の事左樣な御都合ならば郵便切手にて送られても本社丈けは承知いたします●當京都は赤子の時より守子に背負はせ候が何れの守子も淫亂極りたる歌を高聲にて歌ひ自然子供を惡しくするゆへ何か好き雅風の方はあるまじきやと前にある西京の一婆なる方より問合。先づ子守に唱歌を教ゆるが宜しひと思ひ升●すみれ女史。十七八の女生に無害適當の小說は何かとのお問ひ先づ春の舍氏の妹脊鏡、矢野氏の經國美談、其外砂漠之花、閨秀美談などが宜しき者の中と存じます。同じく英字引の尤好きは日就社の英和字彙、至極便利なは丸善の英和双解字彙です。セクスピアの院本中ではマクベス、ハムレツトが第一等でしやう。本誌に頂た論說には相應のお禮を致して居升●熊本大江秀嬢和文獨習法のお問ひ前號及び本號の答にて大抵御推諒と存じ候●丹波柏原清水貞江子。繪畫の雜誌中では國華が第一、次は東洋繪畫叢誌と思ひ升、古今の歌を多く集めたは万葉古今以下代々の歌集が最

翌八日横濱大懇親會にて五百圓を投じ藝娼妓の手踊りあるよしにて市民某氏より高橋田沼兩君に對する痛切の關讃參り居る。

も宜しひと勿論ですお問ひの意味が外に在らば更めてお申越被下度候●愛知縣城南A、B生のお問、新小說の作者は大抵分り居れど都の花及文庫の作者の姓名不分明なり作所と共に答へ兼れとの事。之は追て二雜誌編者の許を得てお答へすべし。

## 〇女報

〇貴婦人の茶會　三條總理大臣の夫人には去る三日永田町の官邸に於て各大臣及び各國公使夫人等を招かれ茶會を催ふされしと云ふ。

〇長野縣　に於ても廢娼の建議々題となりしが不幸にして否決せられぬ。

〇小島官吾氏　は婦人矯風會員中廉直信忠の聞えある小島きよ夫人の外君なり此度同氏が府會に於ける發議に關しては内助頗ぶる多し。

〇府會傍聽者　右發議ありし當夜は小島きよ夫人の外、矢島かぢ、淺井さく、竹尾擧、巖本かし四夫人も傍聽席にあり府會には珍らしきことと注目するもの多かりし。

〇作直之助君　は當夜欠席なりし但し非常の贊成にて小島氏を助け大に該論を主張せられ明日演說ある由。

〇賄賂事件報告　同夜亦た賄賂事件の報告あり十二委員（即ち武藤直中氏を除名して）の調査する所によれば福地武藤二氏收金の外、確たる證跡を得ざりしと云。

〇東京婦人矯風會　過日の議員會に於ていよ〳〵事業により部會を分つことに議決し昨日の年會に於て之を議定することとなれり。

〇平民之友　民友社にては國民之友發兌の傍ら平民の友とあるべき假名つき新聞を來春より發兌する計畫のよし。

〇女子訓導　宮城縣尋常師範學校訓導島田甲子氏は去る三日東京師範學校女子部訓導に轉任せり。

〇河竹しま子逝けり　默阿彌翁の二女にして柴田是眞翁の門に入り出藍の聞へありし河竹しま女史は先頃の繪畫共進會にも出品せしを其筋の御用品となり榮譽を得られたりしが去る頃より病氣にて種々醫療を盡くしたるも遂に其の効なく三十二才を一期として去る二十五日不歸の客と爲られたるは斯道の爲に惜むべきことと云ふ。

〇師範學校女子部　大坂府會にては廿三年度に當り尋常師範學校に女子部を設けんとの建議ありしが先づ委員を選んで詳細のことを調査することに決したり。

〇婦人の醫師　江州高島郡西庄村字寺久保村醫師釆澤順隆氏の長女房榮子は當地に於て醫術修業中なりしが此程中後期科程を及第せられたるを以て不日歸鄕して開業せらるゝの都合なりと云ふ。

〇遺愛女學校　函館元町なる遺愛女學校は過般來規則の改正等を爲し益々校務を擴張せらるゝ由。

〇婦人教會　越前國射水郡高岡市の有志者は交際上に於て婦人の智識を養成せんとて婦人教會なるものを設立し去る二日より四日迄同市稱念寺に於て藤枝知常師を聘して第一會を開かれたる由。

〇保姆傳習生卒業證書授與式　去る廿二日私立神戸幼稚園に於て保姆傳習生の卒業證書授與式を執行せられたるが當日は内海知事、同夫人も來會せられたる由。

〇娼妓移轉の建議　京都府會にては三ヶ年又は五ヶ年を期して市内の娼妓を島原若しくは其他一二ヶ所の一隅に移轉せしむべしとの建議ありたり。

〇婦人共援會　今度京都府下二三の有志婦人が發起となり婦人共援會なるものを興し專ら婦女德育を養成せんとて去る一日寺町通本長寺に於て發會を爲せしと云ふ。

## 週報

〇官令　二十九日法律第三十號を以て地租條例中改正の件を裁可公布せらる●二日勅令第百二十二號を以て警察官消防官帶劍の制を裁可公布せられたり

〇宮廷　廿五日賞勳局より宮内省を經て天皇、皇后兩陛下へ大日本帝國憲法發布紀念章を奉呈せり●天皇陛下は去廿七日陸軍乘馬學校へ行幸あらせられたり●皇后陛下は去る廿七日山川操子を御使として大隈伯の病狀を御慰問あらせらる●廿九日宮中に於て大日本帝國憲法發布記念章を天皇陛下より各親王殿下へ皇后陛下より同妃殿下へ御親授あらせられたり●赤坂離宮中に東宮御所を置れたり

〇政治　廿六日内閣會議を開かる●賄賂事件取調委員は去る廿七日府廳に參集して審查上の事項を府會へ報告せり●三條總理大臣は去る廿七日芝離宮へ各大臣及び宮内高等官を招待して饗宴を開きたり●廿九日各大臣は内閣會議に參集せり●廿九日元老院議官陸軍少將正三位男爵井田讓君逝けり●廿九日内務省にては會計會議を開きたり●一日芝盛元座に開かれたる政談演說會は中止解散を命ぜらる●新潟縣會は去月廿七日中止したり●千葉縣會議長池田榮亮氏辭職せられ片岡治助氏議長と爲れり●二日内務省に於て市區改正會議を開かる

〇外交　廿六日露國公使英國公使を訪問す同日伊國公使は大隈伯を見舞たり●廿七日米國公使は三條總理大臣を訪問す●有栖川熾仁親王殿下は去る廿九日露國公使を招待せり●廿八日英國公使館に於て各國公使及び青木外務次官を招待して夜會を催せり●三十日和蘭公使は文部省へ出頭して榎本大臣へ面會せり

〇會社　東京商工會は去る廿五日定式會を開きたり●大坂鐵道會社長最上五郎氏は去月廿七日辭職したり●二日日本郵船會社は株主總會を開き當季間の報告を爲し株主配當金の割合等を定めたり

〇新誌　大坂東雲新聞は舊自由黨の機關新聞と爲れりと●去月廿五日發行の無遠慮は治安に妨害ある旨を以て自今發行を停止せらる●去る廿七日岐阜縣下の愛嬌洛しと題する雜誌は停止せらる●朝野新聞は去る三十日發行停止を命ぜらる

〇榮報　島津久宗氏華族に列せらる●去る廿六日東京倶樂部の會員帝國大學の博士學士有志の新聞記者等は今度本邦に漫遊せられたるサル、エドゥヰン。アルノルド氏を鹿鳴館に招待したり●去る二日ボアソナード氏再來●去月三十日從三位伯爵中川久昭氏薨ず





Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三年本科四年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の敎員は孰れも熟達善良なり然して本校の敎授は實に完然なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所なり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地 **東洋英和女學校**

廣告

本校此度新築落成し敎則を改良し女子必要の學科を懇切に敎授す目下若干名の女生徒を募集す入學望みの方は至急御申込あれ敎師は内外人數名月謝一圓束脩一圓寄宿料三圓

横濱居留地山手二百四十四番 **横濱英和女學校**

## ●第拾貳期唱歌敎員速成科會員募集

●(學科) ○唱歌○理論○風琴(オルガン)
●(程度) 文部省唱歌集初篇、二篇、幼稚園
●(期限) 四ヶ月(明二十三年一月十日始業 同 五月一日卒業)
●(定員) 凡二十名(女子ニ限ル)
●(敎員) 鳥居忱氏
●(備考) 一月八日音聲試驗ノ上入會ヲ許ス 入會志願者ハ父兄、或ハ親戚同伴又ハ頼狀持參出頭スベシ●細則御入用ノ方ハ二錢郵劵御送附ノ事

明治廿二年十二月

神田區北神保町七番地 **東京唱歌會**

私儀今般左の處に開店仕り記名の品々廉價を以て正直に販賣仕候間遠近の愛兄姉多少を論せず御用向き仰せ附け被下度偏へに奉願上候

●シヤツ類 ●ハンカチーフ類 ●毛糸編物類 ●靴下類 ●肩掛類

京橋區南傳馬町壹丁目拾三番地 **無藤新三郎**

## 女生徒募集

一本校生徒各學級共募集候條入學志願者ハ本月二十五日限リ申出ベシ

明治二十二年十二月

京橋區南小田原町四丁目八番地 **東京府高等女學校**

## 正教新報

毎月一日十五日二回發行○毎一冊三十頁餘○壹冊郵税共金四錢五厘○半ヶ年分十二冊郵税共金五十一錢○壹ヶ年分二十四冊郵税共金九十二錢

第貳百十六號目次(十二月一日發行)

**論説** 帝室と基督正敎(森田亮)○基督敎の進歩説(大和田敬時)○特別寄書○無智の忠愛を主張する人に告ぐ(紅葉散史)○基督敎の婦女子と回々敎の婦女子(北川亞烈士) **雜錄** 印度王と海獸○酒戒○惡者を遠くべし○耶路撒冷城案内記○詞叢●文苑○舊約百詠(二篇)○觀野菊有感 **雜報** ○日本正敎會記事數件○外報○米國桑港正敎會の聖堂成る

發行所 東京神田區駿河臺北甲賀町十三番地 **愛々社**

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

遞信省認可

# 歐米各國 時計特別廉價販賣廣告

貴婦人用瑞西國製十五形十八金無双表蓋金剛石入兩面彫刻側器械中心ヨリルビー石入ニッケレト二重髯 Spiral hair Spring 切天符 Compensated Balance 向ピアンクル Stright Line Lever 龍頭巻懐中時計特別代價金六拾五圓

貴婦人用瑞西國製十八金無双側器械中心ヨリルビー石入シリンドル龍頭巻懐中時計特別代價金二拾五圓ヨリ三拾五圓迄

貴婦人用瑞西國製十八金片硝子器械ルビー石入シリンドル龍頭巻懐中時計特別代價金拾四圓ヨリ二拾五圓迄

貴婦人用瑞西國製銀側片硝子器械ルビー石入シリンドル龍頭巻懐中時計特別代價金七圓五十錢

貴婦人用瑞西國製金着セ側片硝子器械ルビー石入シリンドル龍頭巻懐中時計特別代價金八圓貳十錢

貴婦人用瑞西國製不變色白銅側器械ルビー石入シリンドル龍頭巻懐中時計特別代價金四圓五十錢

佛國新發明不可思義懐中時計銀側特別代價金貳拾七圓同鉄側金貳拾五圓金側金八拾五圓

貴婦人用米國製無双側懐中時計特別代價金廿五圓ゟ五十圓迄

其外男子用金銀鐵ニッケル諸金屬側懐中時計各種

金銀指環腕環諸金屬装飾品各種

チルゴール類大中小特別代價金十圓ヨリ四十五圓迄

瑞西國別製チルゴール風琴リン木琴大鼓入軍歌八段特別代價金二百圓

右の品々堅牢なる品相撰み同盟保險證を付し特別廉價を以て御求に應じ候間不限多少御愛顧御用向之程奉願上候其外金銀銅鐵諸金屬時計側同鎖指環腕環装飾品類御注文に應じ確實を旨とし廉價を以て速に調達仕候間是亦御用向之程奉願上候也但し後日金性等に相違有之候節は何時たりとも無差支納代價を以って御引取可仕候是亦併せて廣告仕候

東京市本郷區本郷二丁目廿二番地

**時計商 中山直正**

---

**發兌**

十月。五日 十九日 廿六日

十一月。二日 九日 十六日 廿三日 三十日

十二月。七日 十四日 廿一日 廿八日

**定價**

一册。六錢 郵税。五厘 (但府内無郵税)

十册。五十八錢郵税。五錢 (同前)

半年分 一圓四十三錢 府外は 一圓五十六錢

一年分 二圓六十錢 府外は 二圓八十六錢

**廣告**

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行 一回 (廿七字詰) 前金拾錢

同 三回以上 一割引

同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌ハ今後女學校又ハ婦人會抔ヨリ毎發兌十冊以上一纏ニ御注文ノ向ヘハ別ニ十冊毎ニ一冊ハ無代ニテ進呈可仕候

明治二十二年十二月六日印刷
明治二十二年十二月七日出版

發行所 東京麴町區富士見町二丁目一番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留 巖本善治

印刷人 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"Jogaku Zasshi."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1,56 six month; *yen* 2,86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1b. Fujimicho 2chiyome, Kojimachi, Tôkyô, Japan.



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY